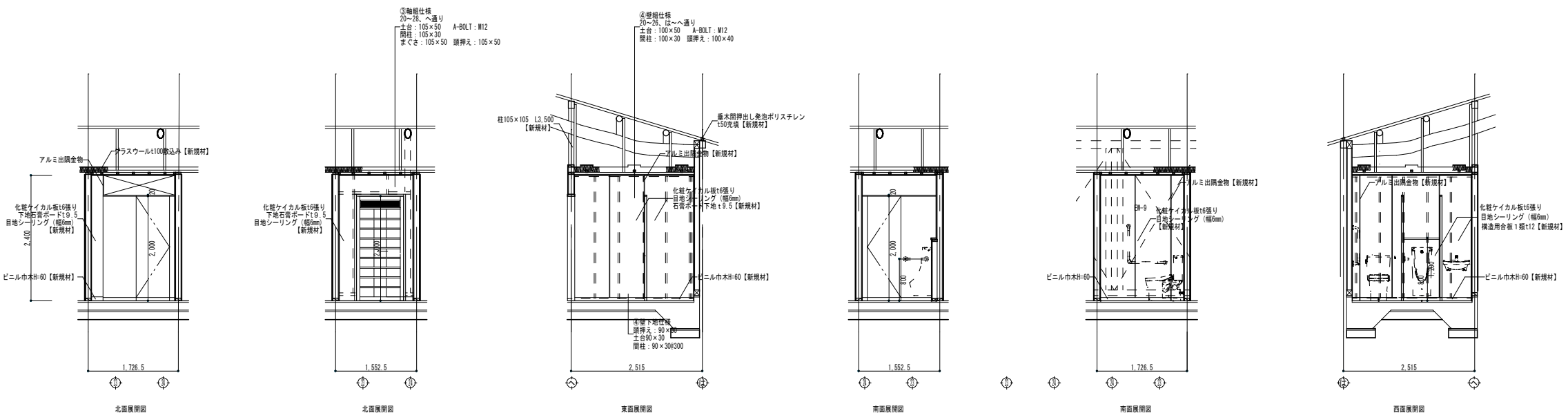
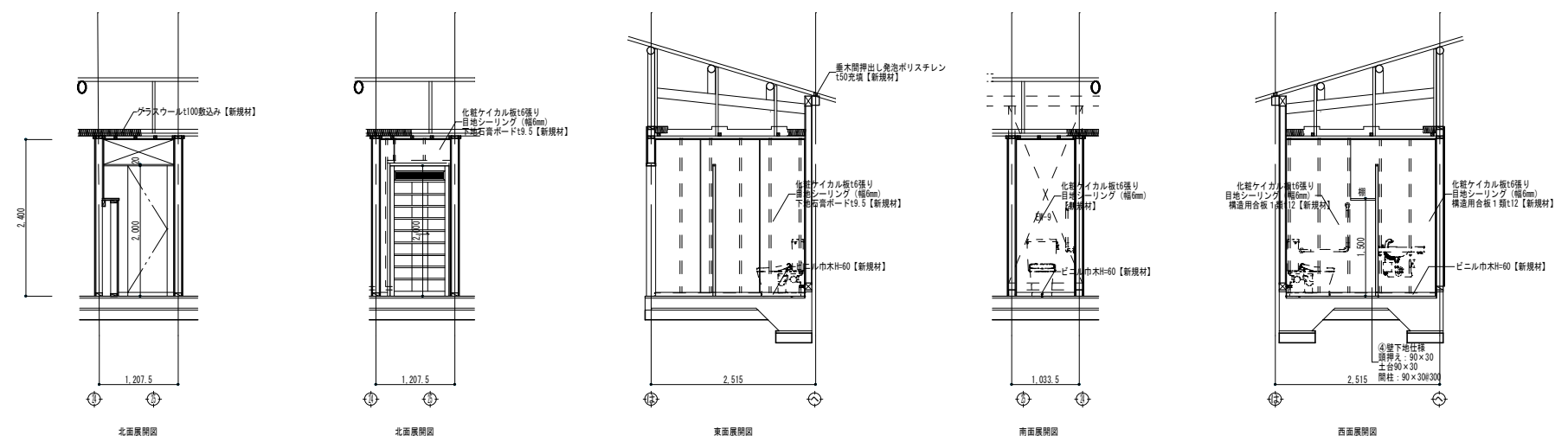


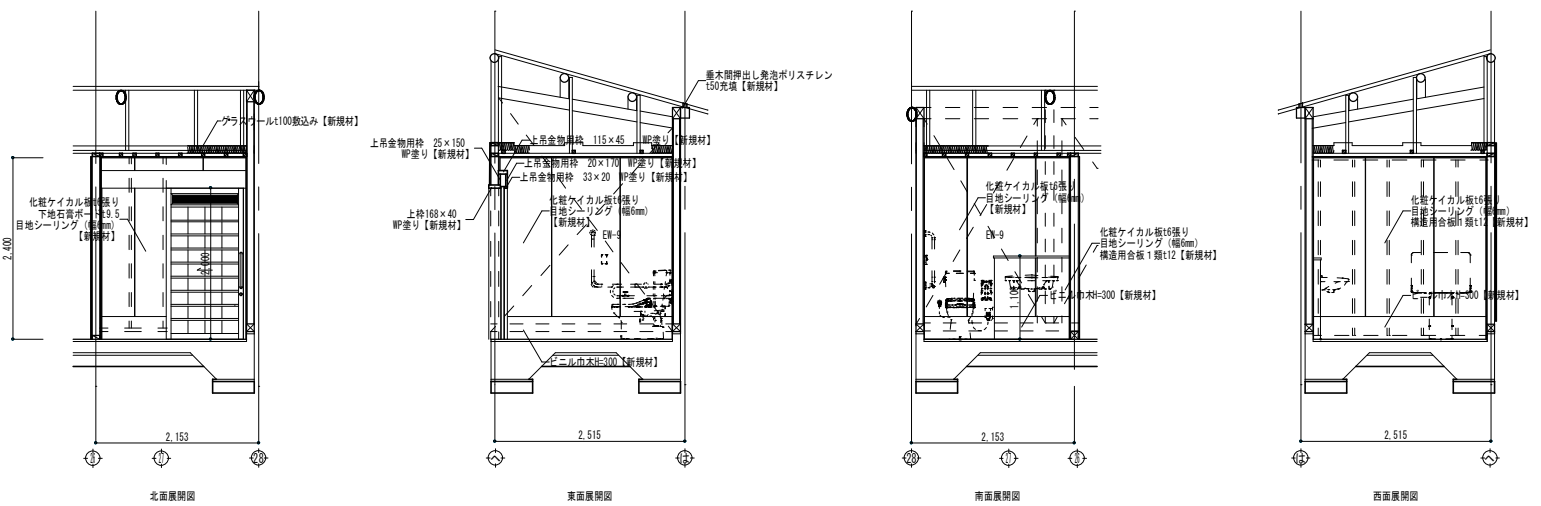
男子トイレ



女子トイレ



多目的トイレ



※内部の壁下地に使用する構造用合板t9【新規材】については1類2級品とする

建設コンサルタント・1級建築士事務所  
株式会社 **グリーンシグマ**

〒950-2042 新潟市西区坂井700-1  
TEL (025) 211-0010 FAX (025) 269-1134

1級建築士事務所 新潟県知事登録 2153号  
1級建築士 大臣登録 第311001号 片柳友哉

CHECK REVISION CHIEF DRAFTING

DATE

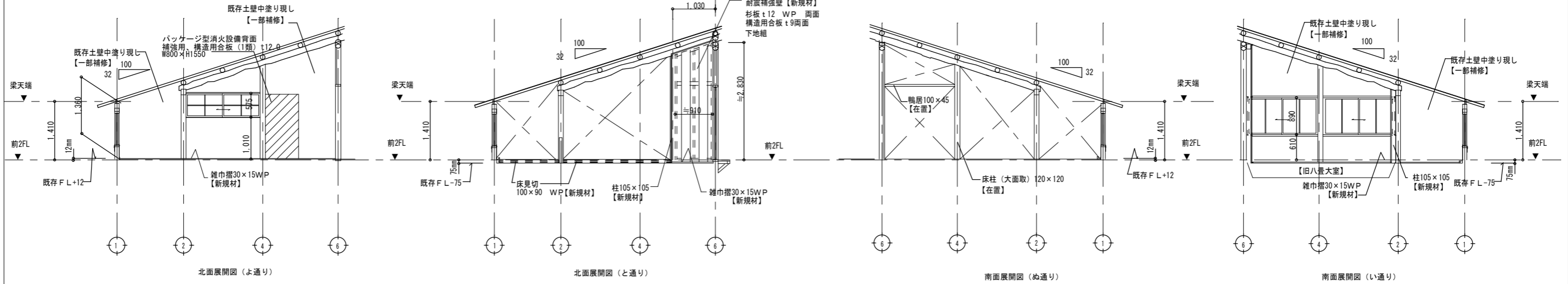
PROJECT  
旧今井染物屋耐震改修工事

SUBJECT  
改修展開図 11 (新設便所)

SCALE  
A1: 1/50  
A3: 1/100

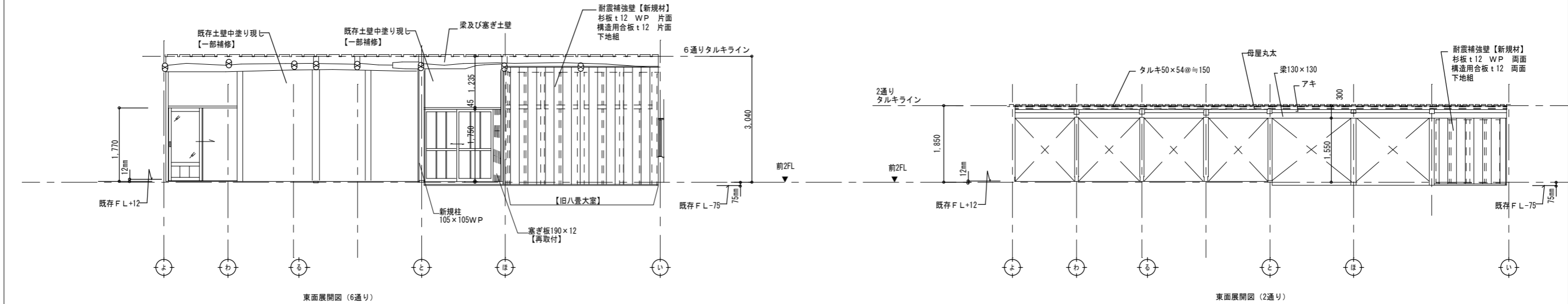
NO.  
B-25

サギヨウバ  
(1) (2)



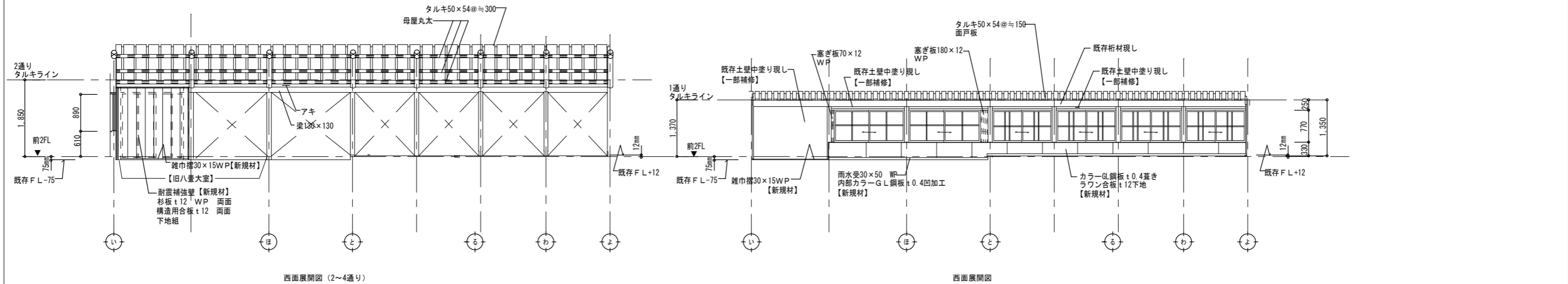
※既存土壁中塗り現しの一部補修部位は、既存壁仕上材撤去の後状況調査を行い、監督員と協議の上決定する。(設計段階では該当面積の5%程度を欠損部の土塗壁による補修として想定)

サギヨウバ  
(1) (2)



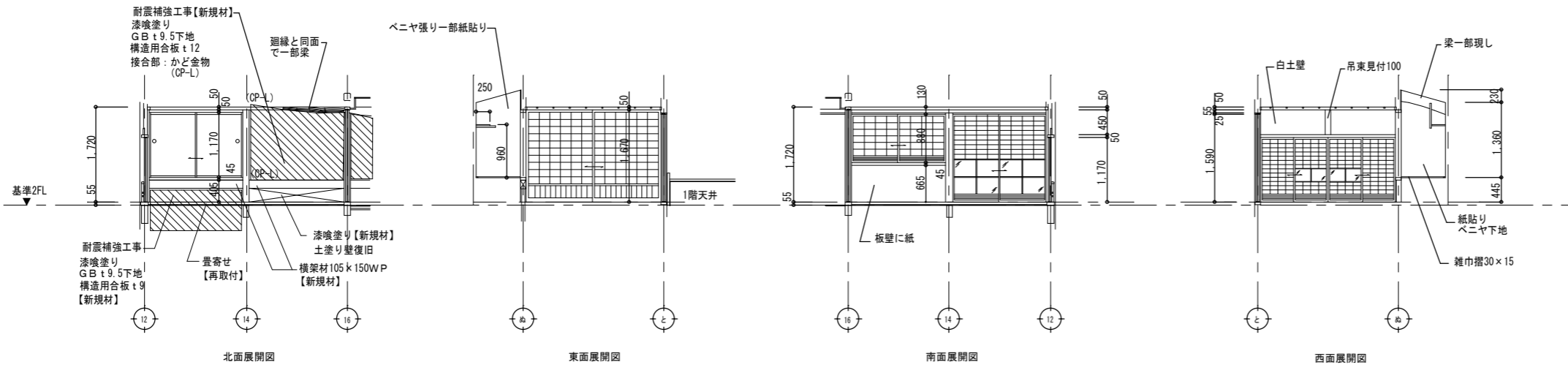
※既存土壁中塗り現しの一部補修部位は、既存壁仕上材撤去の後状況調査を行い、監督員と協議の上決定する。(設計段階では該当面積の5%程度を欠損部の土塗壁による補修として想定)

サギヨウバ  
(1) (2)

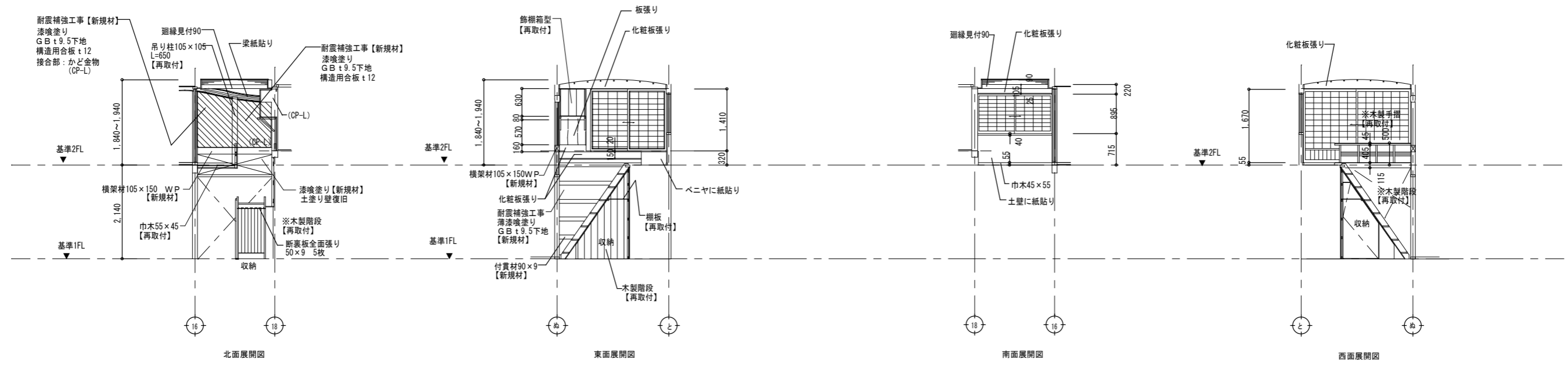


※既存土壁中塗り現しの一部補修部位は、既存壁仕上材撤去の後状況調査を行い、監督員と協議の上決定する。(設計段階では該当面積の5%程度を欠損部の土塗壁による補修として想定)

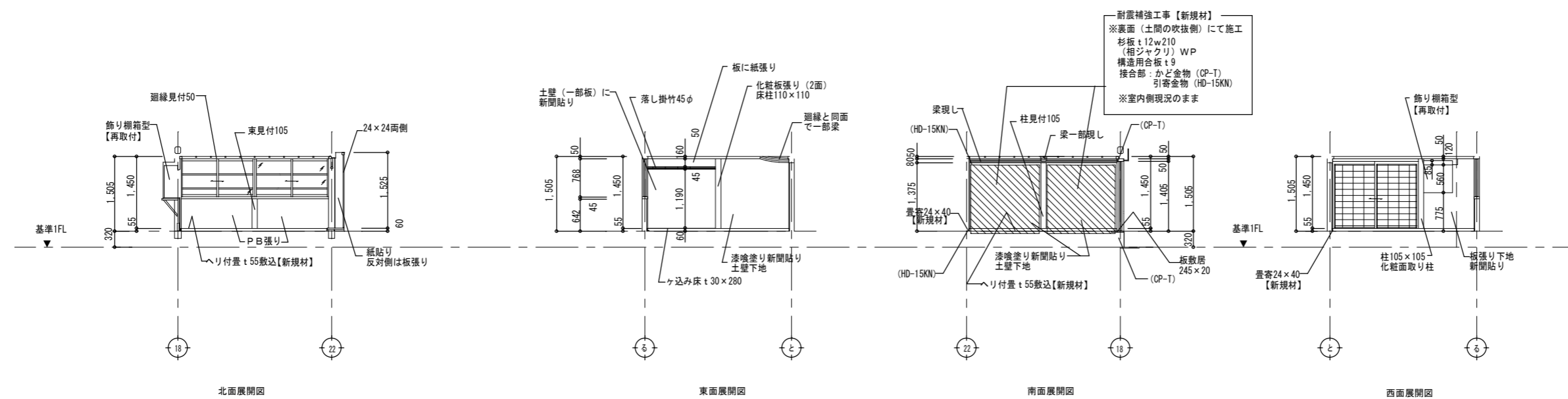
中二階



階段室

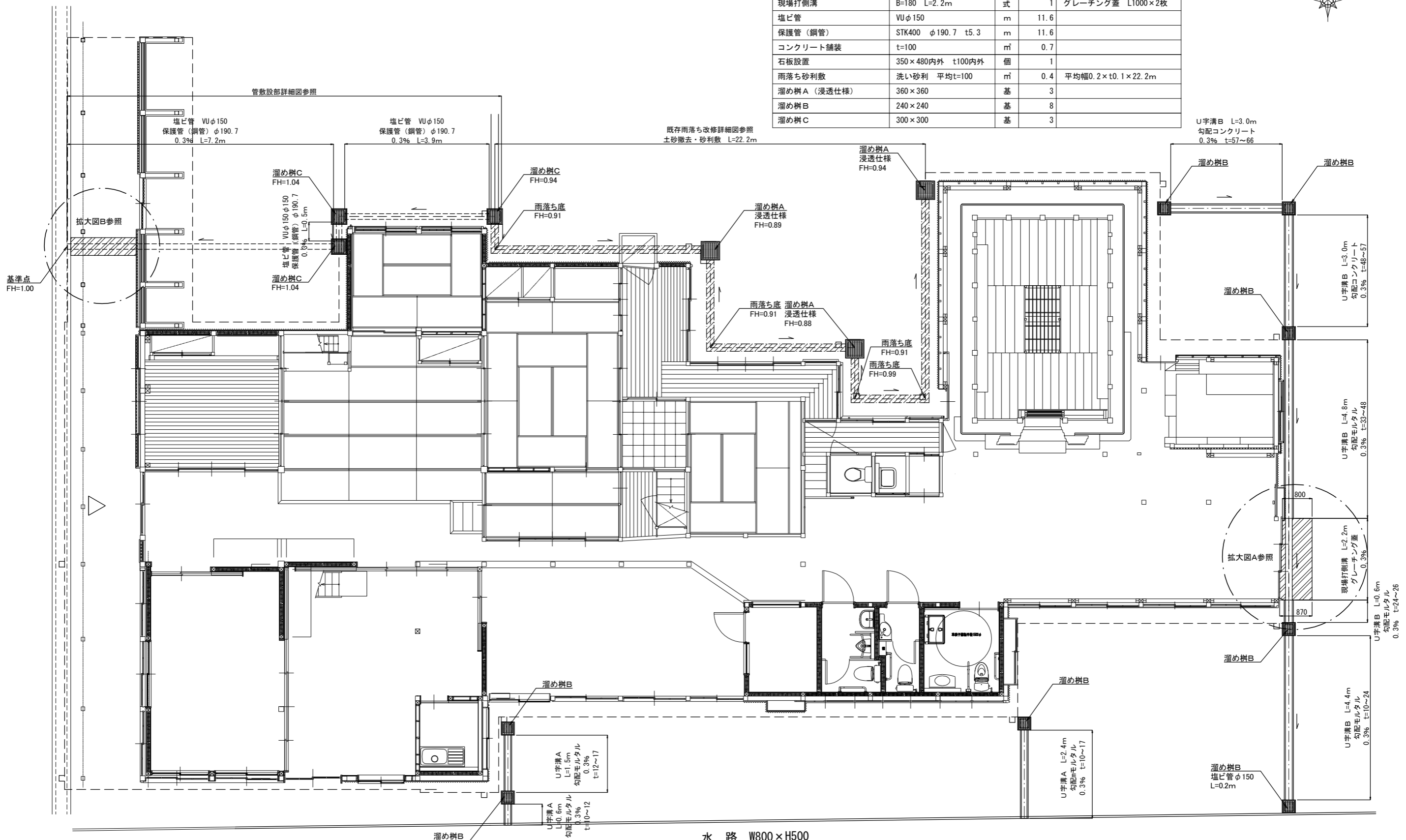


裏二階

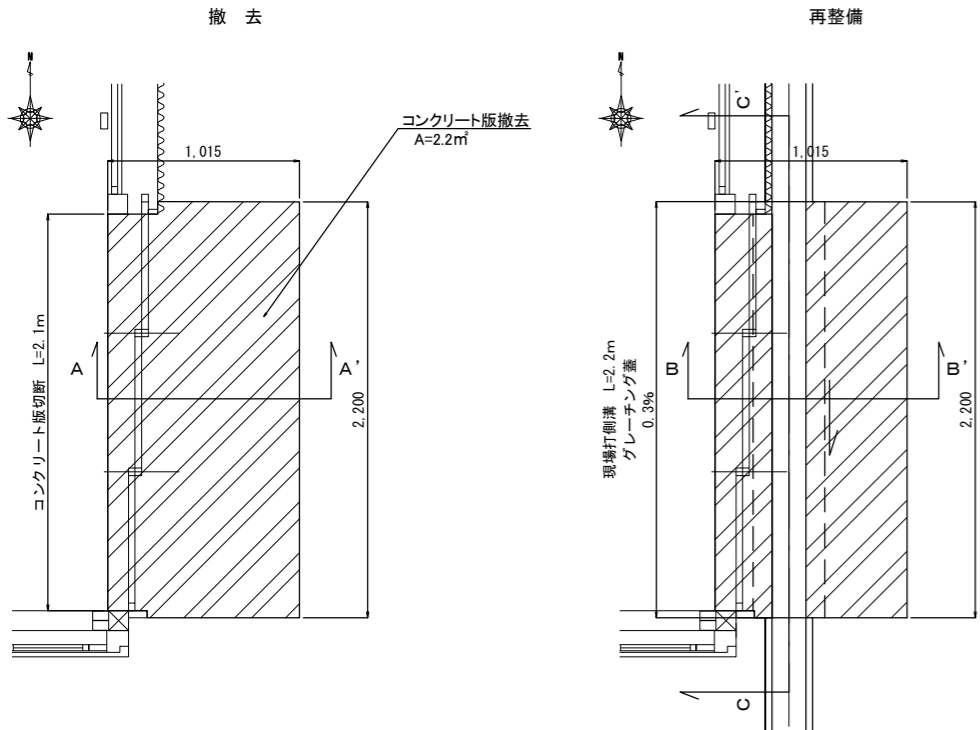


整備数量表

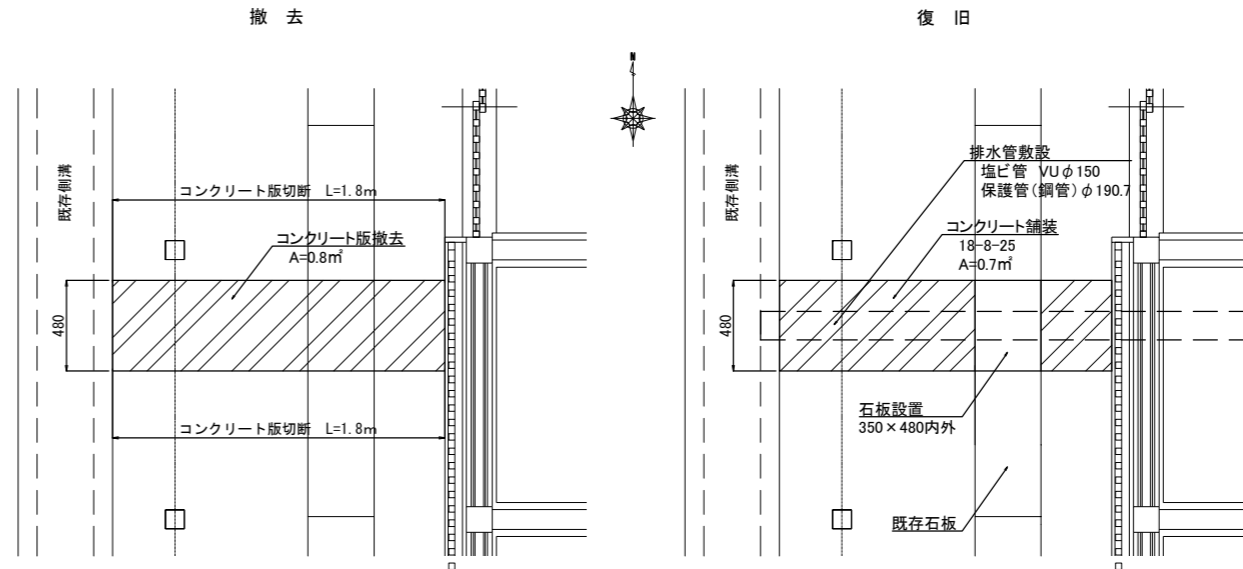
名称	規格	単位	数量	摘要
U字溝 A	B=100 H=100	m	4.5	
U字溝 B	B=180 H=180	m	15.8	
現場打側溝	B=180 L=2.2m	式	1	グレーチング蓋 L1000×2枚
塩ビ管	VUφ150	m	11.6	
保護管(鋼管)	STK400 φ190.7 t5.3	m	11.6	
コンクリート舗装	t=100	m <sup>2</sup>	0.7	
石板設置	350×480内外 t100内外	個	1	
雨落ち砂利敷	洗い砂利 平均t=100	m <sup>2</sup>	0.4	平均幅0.2×t0.1×22.2m
溜め樹 A (浸透仕様)	360×360	基	3	
溜め樹 B	240×240	基	8	
溜め樹 C	300×300	基	3	



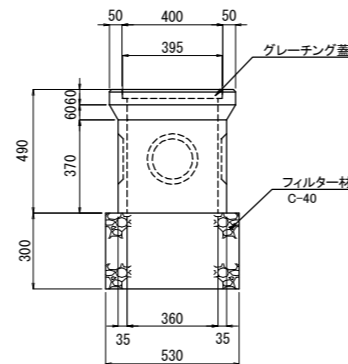
拡大図A  
S=1/20 (A1) 1/40 (A3)



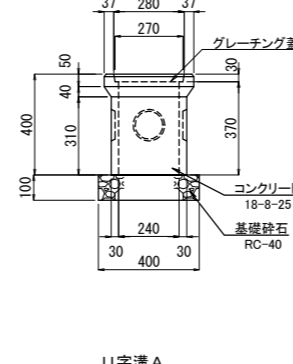
拡大図B  
S=1/20 (A1) 1/40 (A3)



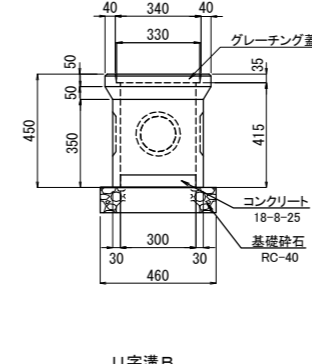
溜め樹A (浸透仕様)  
S=1/15 (A1) 1/30 (A3)



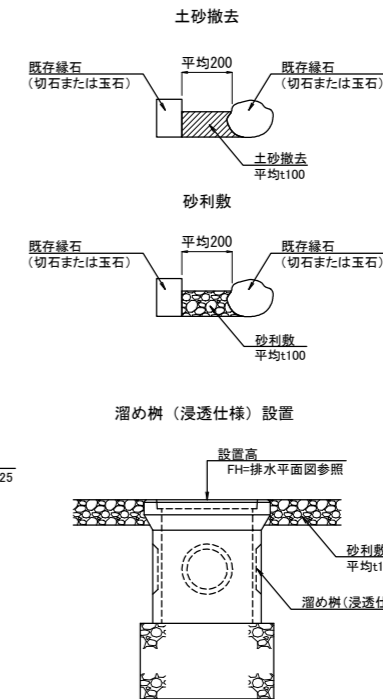
溜め樹B  
S=1/15 (A1) 1/30 (A3)



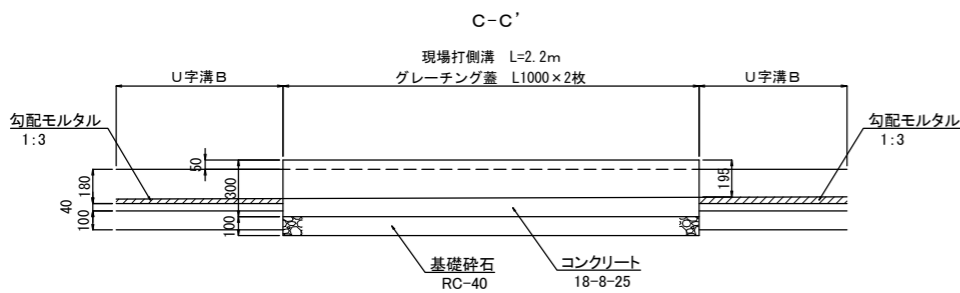
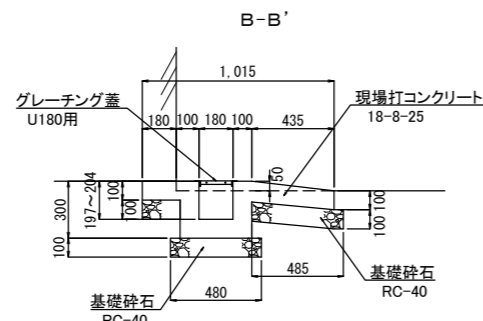
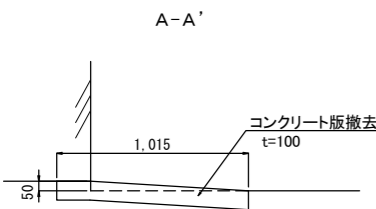
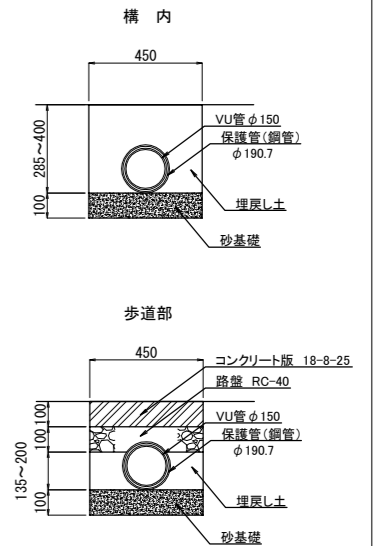
溜め樹C  
S=1/15 (A1) 1/30 (A3)



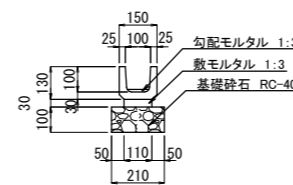
既存雨落ち改修詳細図  
S=1/15 (A1) 1/30 (A3)



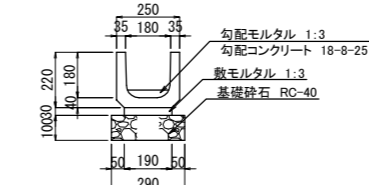
管敷設断面図  
S=1/15 (A1) 1/30 (A3)



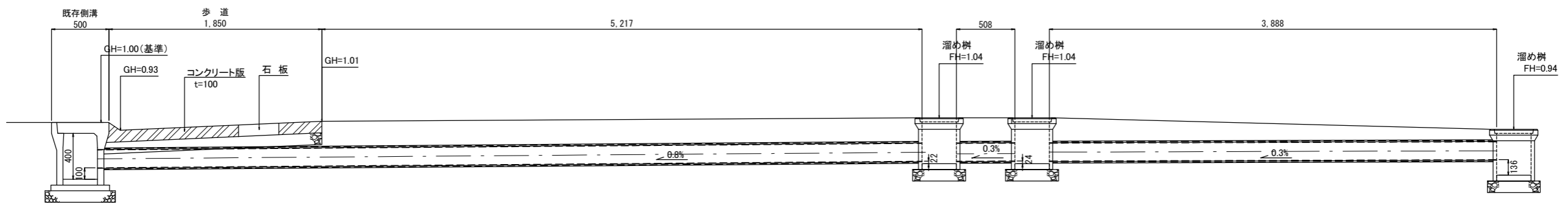
U字溝A  
S=1/15 (A1) 1/30 (A3)



U字溝B  
S=1/15 (A1) 1/20 (A3)



管敷設部詳細図  
S=1/20 (A1) 1/40 (A3)



構造設計標準仕様

印は適用項目を示す。

1. 建築物の構造内容

- (1) 建物概要
(a) 工事名称 旧今井染物屋耐震改修工事
(b) 工事種別
(c) 構造種別
(d) 規模・階数
(e) 主要用途
(f) 屋上付属物
(g) 増築計画
(h) 付帯工事
(i) その他事項

- (2) 架構形式及び計算ルート
X方向
Y方向
(3) 積載荷重 (主要用途)

Table with 5 columns: 室名, スラブ用, 架構用, 地震用, 備考

- (4) 積雪荷重
(5) 地震荷重
(6) 風荷重
(7) 土圧、水位
(8) 特殊荷重

2. 使用構造材料

Table for concrete materials with columns: 適用場所, 種類, 設計基準強度, 品質管理強度, スラブ厚, 備考

- (2) コンクリートブロック

Table for reinforcement (鉄筋) with columns: 種別, 径, 使用ヶ所, 継ぎ手

Table for steel materials (鉄骨) with columns: 種別, 使用ヶ所, 現場溶接, 備考

- (5) ボルト類
(6) 屋根・床・壁

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
(2) 地盤調査計画
(3) 支持地盤の深さは、設計段階で考えたものと変わる可能性もある。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
(2) 杭基礎
(3) 杭の施工に関し工事監理者に提出し、承認を必要とするもの。

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
(2) 鉄筋

- (3) 型枠

Table for formwork (型枠) with columns: 種類, 部位, せき板, 支柱

- 注) 1. 片持ち梁、庇、長大スパンの梁、大形スラブ等の型枠を支持する支柱又は施工荷重が著しく大きい場合の支柱等は、必要に応じて存置期間を延長する。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記基準等による。
(2) 鉄骨制作工場
(3) 工事監理者の承認を必要とするもの
(4) 工事監理者に連絡し指示を受ける検査
(5) 接合部の溶接は下記による。
(6) 溶接部及び接合部の検査
(7) 防錆塗料

7. 設備との関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
設備機器の架台および基礎については、工事監理者の承認を得ること。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。

# 木造在来軸組工法標準納まり図 (例)

## 1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 施工の際は本標準図の他、日本建築学会 建築工事標準仕様書 JASS11 木工事「木造軸組工法住宅 接合部の設計と金物の取付」(社)日本木造住宅産業協会等参照のこと。
- (3) 床組 下記●印で選択した床組を適用する
  - 剛な床組
  - 柔な床組
  - 天井上面剛とする。

## 2. 金物

- (1) 使用する金物は、(財)日本住宅・木造技術センターの定める規格によるZマーク表示品または、これと同等以上のものを使用する。
- (2) 接合及び補強をすることに当たっては、接合部位の納まりに適した金物を使用すること。
- (3) 接合金物の許容耐力一覧表

名称	記号	短期許容耐力 (kN)			使用接合具等
		べいまつ類	べいつが類	すぎ類	
太めくぎ	ZN 40	0.86	0.77	0.68	
	ZN 65	0.86	0.77	0.68	
	ZN 90	1.26	1.14	0.98	
スクリークぎ	ZS 50	1.48	1.34	1.17	
柱脚金物	PB-33	11.38	10.40	10.00	六角ボルト M12(1本)
	PB-42	22.76	20.80	20.00	六角ボルト M12(2本)
ひら金物	SM-12	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN65(4本)
	SM-40	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(12本)
ひねり金物	ST-9	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN40(4本)
	ST-12				
折曲げ金物	SF	2.58	2.31	2.04	太めくぎ ZN40(6本)
くら金物	SS	5.16	4.62	4.08	
羽子板ボルト	SB-F, SB-F2	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(1本)
	SB-E, SB-E2				
かど金物	CP-L	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(10本)
	CP-T				
山形プレート	VP	5.04	4.56	3.92	太めくぎ ZN90(8本)
短ざく金物	S	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(2本)
かね折り金物	SA				
かすがい	C-120	1.27	1.18	1.08	
	C-150				
手違いかすがい	CC-120	1.27	1.18	1.08	
	CC-150				
引き寄せ金物	HD-B10	11.38	10.40	10.00	六角ボルト M12(2本)
	S-HD10				又はラグスクリュー-LS12(2本)
	HD-B15				六角ボルト M12(3本)
	S-HD15	17.07	15.60	15.00	又はラグスクリュー-LS12(3本)
	HD-B20				六角ボルト M12(4本)
	S-HD20	22.76	20.80	20.00	又はラグスクリュー-LS12(4本)
	HD-B25				六角ボルト M12(5本)
	S-HD25				又はラグスクリュー-LS12(5本)
	HD-N5	7.56	6.84	5.88	太めくぎ ZN90(6本)
	HD-N10	12.60	11.40	9.80	太めくぎ ZN90(10本)
	HD-N15	20.16	18.24	15.68	太めくぎ ZN90(16本)
	HD-N20	22.68	20.52	17.64	太めくぎ ZN90(20本)
	HD-N25	29.48	26.68	22.93	太めくぎ ZN90(26本)

※ 表値は鋼板添え板による25%割増の値を示す。長期許容せん断耐力の値は表値の1/2とする。  
 ※ べいまつ類：べいまつ・くろまつ・あかまつ・からまつ・つが  
 ※ べいつが類：べいひ・べいつが・ひば・ひのき・もみす  
 ※ すぎ類：とどまつ・えぞまつ・べにまつ・スプルー・すぎ・べいすぎ  
 ※ ラグスクリュー-LS12は首下長11cm以上とし、柱寸法10.5cm角以上の部材に適用される。  
 ※ 算出根拠は、日本建築学会発行の「木質構造設計基準・同解説」による。

### (4) アンカーボルト 下記●印で選択したアンカーボルトを適用する

アンカーボルト	M12	L = ● 400 ● 450 ● 500
	M16	L = ● 600 ● 700 ● 800 ● 900 ● 1000

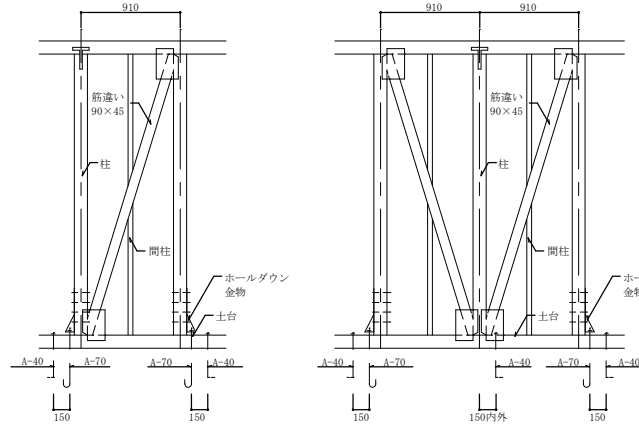
## 3. 各部構造の施工上の留意点

### 1 基礎と土台の繋結

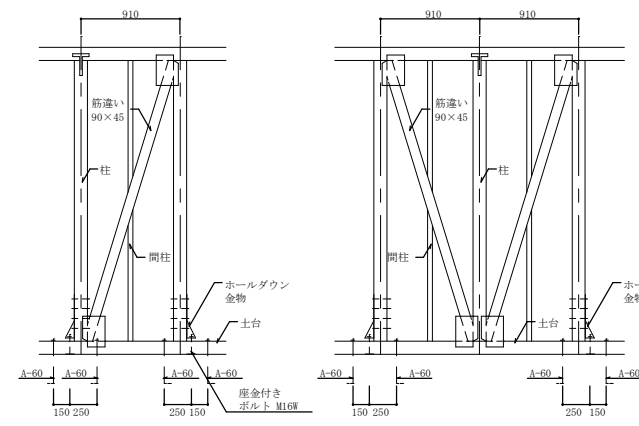
#### (1) アンカーボルトの配置

(a) 筋違いを設けた耐力壁の部分は両端柱の外側下部に近い位置を原則とする

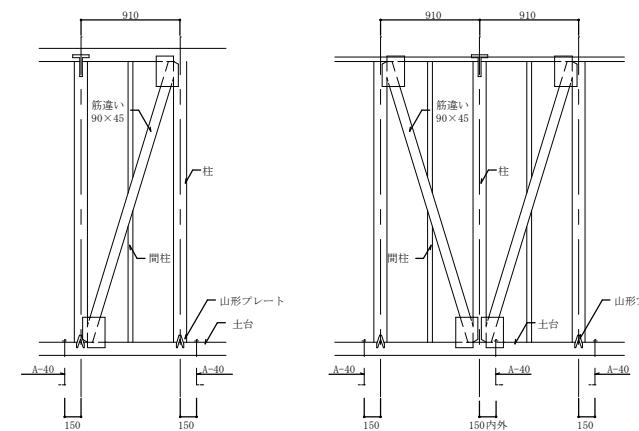
① ホールダウン金物をアンカーボルト (A-70) で繋結する場合



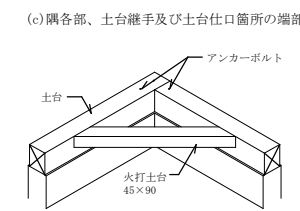
② ホールダウン金物を座金付きボルト (M16W) で土台と繋結する場合



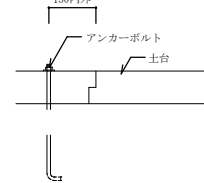
③ 山形プレートで土台と繋結する場合、または金物の無い場合



(b) 構造用合板を張った耐力壁の場合は(c)に準ずる



(c) 隅各部、土台継手及び土台仕口箇所の端部

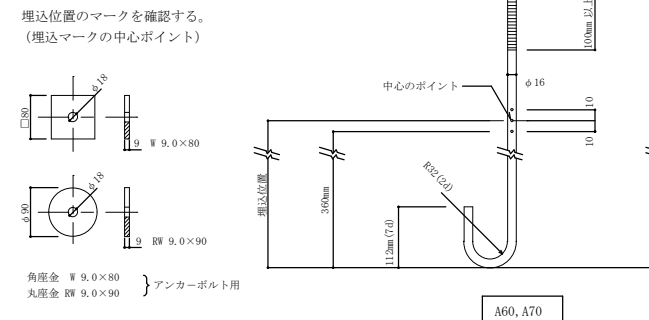


(d) 上記(a), (b)及び(c)以外の部分においては間隔2m以内になるような位置とする

### (2) アンカーボルトの施工

- アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準墨に正確に合わせる。
- アンカーボルトのコンクリート基礎への埋め込み長さはA-60, A-70については360mm以上、A-40については250mm以上とする。  
なお、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。
- アンカーボルトは、所定の位置に垂直に敷設されるよう位置出し材を布基礎型枠材に釘打ちし、アンカーボルトを固定してからコンクリートを打設すること。
- アンカーボルトは、衝撃などにより曲がりが生じないように、慎重に取り扱う。  
また、ねじ部分には、損傷・錆の発生・汚れ等を防止するために布、ビニールテープなどを巻いて養生を行う。

### (3) アンカーボルトの定着のチェック方法

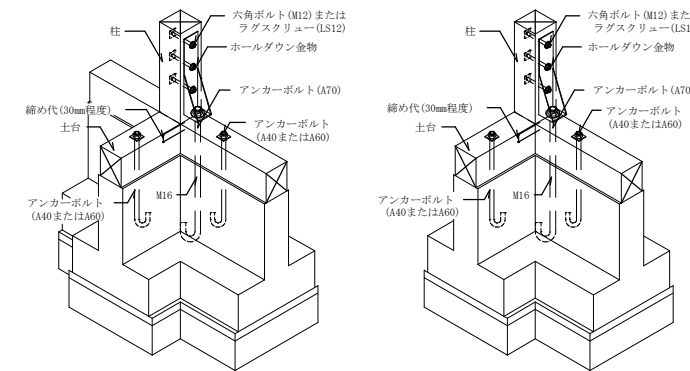


## 2 柱と基礎 (土台) との繋結

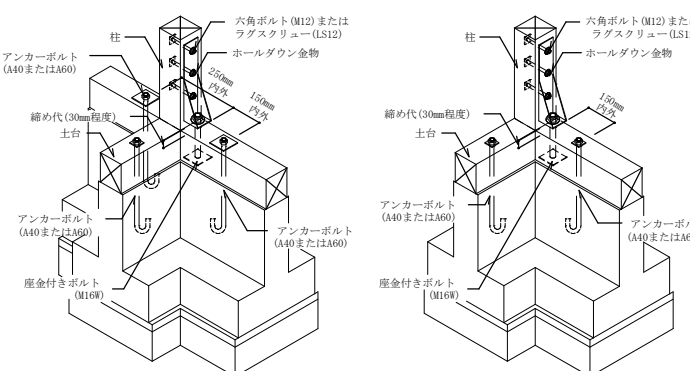
(a) 柱は、構造計算による引抜き応力に耐えられるように接合金物 (ホールダウン金物) により基礎または土台と繋結する。ホールダウン金物は、柱の下部に締め代を30mm程度とり六角ボルト (M12)、ラグスクリュー (LS12) または太めくぎ (ZN90) に柱に固定する。

(b) 繋結方法は次による

① ホールダウン用アンカーボルトを用いて直接基礎に繋結する場合

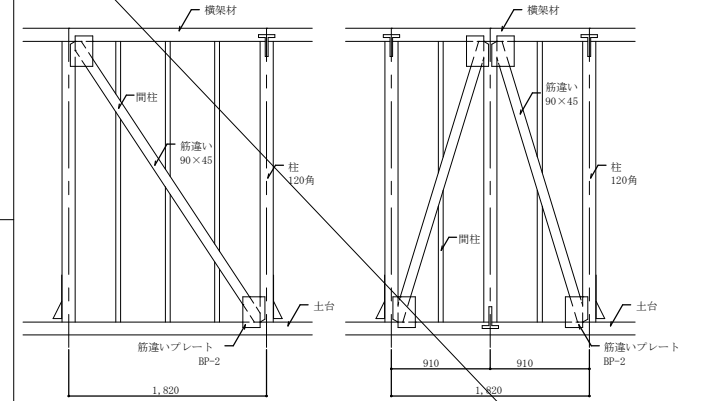


② 座金付きボルト (M16W) を用いて土台と柱を繋結する場合



## 3 筋違いの仕口

筋違いの仕口は筋違いプレート (BP, BP-2) によって繋結する



## 4 通し柱

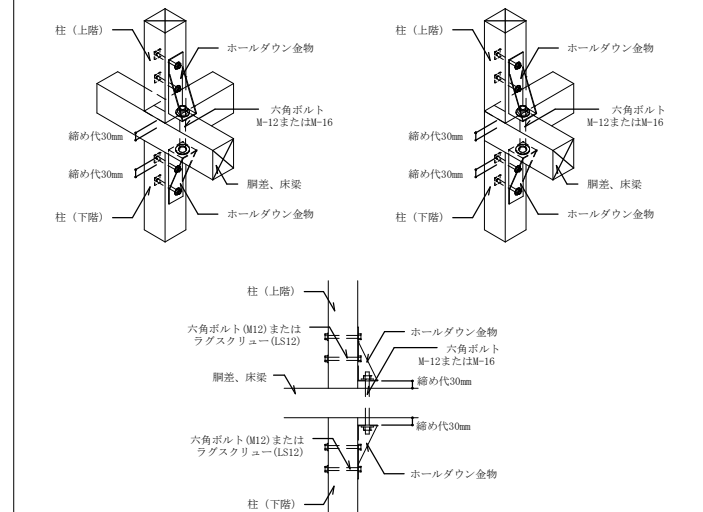
(a) 通し柱は、次のいずれかによる

- 1階から3階に達する通し柱とする。
- 1階から2階までの通し柱と、2階から3階までの通し柱を組み合わせて使用する場合、当該通し柱と管柱とは接合金物で繋結する。

(b) 通し柱に代わる管柱の補強

外周部の主要な隅柱及び構造計算による引抜き応力大きい2階の柱は、1階の管柱と接合金物 (ホールダウン金物) で繋結する。ホールダウン金物の取付は、次による。

- 上階の柱及び下階の柱にホールダウン金物を用い、柱の下部及び上部に締め代を取り六角ボルト (M12)、ラグスクリュー (LS12) 等で各々取付ける。
- ホールダウン金物は相互に六角ボルト (M12またはM16) を用い繋結する。



(c) 上記(b)以外の構造計算による引抜き応力が小さい2階柱の接合金物は、短ざく金物 (S)、ひら金物 (SM-40) 等のZマーク表示品、または、これらと同等以上のものとする。

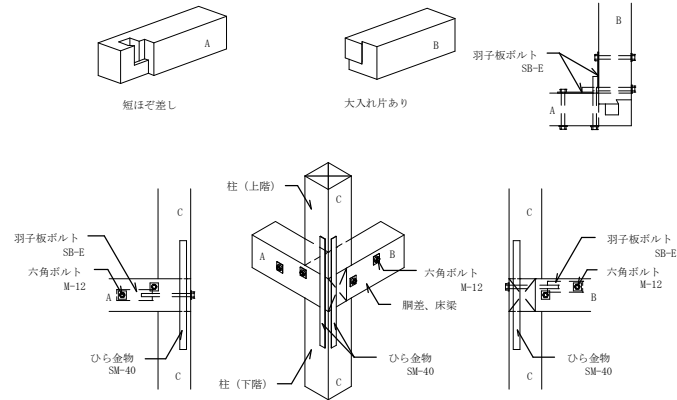
## 参考図

(1) 隅柱

(a) 出隅

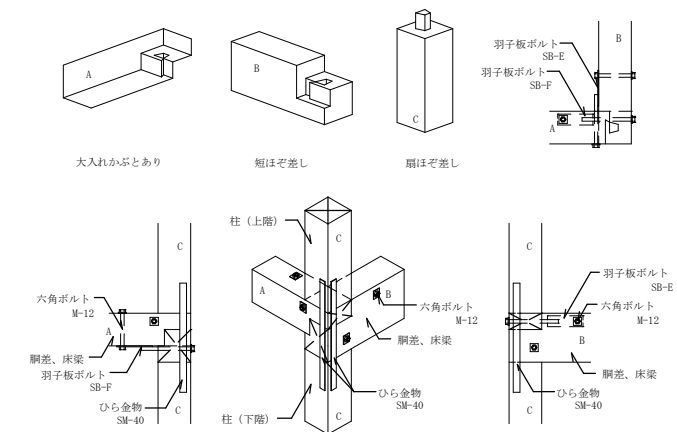
① 直交する胴差がほぼ同寸であり、かつ同一高さで取合う場合

一方の胴差(B)を他方の胴差(A)に大入れ片あり掛け、胴差相互を建物の内側に添えた羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ、上下管柱は胴差(A)に短ほぞ差しとし、管柱出隅両面にひら金物(SM-40)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



② 直交する胴差の寸法が異なり段違いに取合う場合

一方の胴差(A)を他方の胴差(B)に大入れ(かぶと)ありに仕掛け、胴差(A)の下部に添寄せた羽子板ボルト(SB-F)で胴差(B)を引寄せ、さらに、胴差(B)の内側に添寄せた羽子板ボルト(SB-E)で胴差(A)を引寄せる。上下管柱はそれぞれ短ほぞ差し、管柱出隅両面にひら金物(SM-40)を当て各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



①、②共、状況に応じて、かね折り金物(SA)を胴差に対して取り付けること。

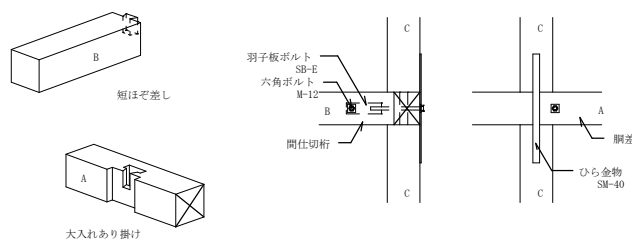
(b) 入り隅

入り隅は出隅の場合に準ずる。ただし、準ずることが困難な場合には通し柱とする。

(2) 「隅柱に準ずる柱」の通し柱と同等以上の耐力を有するような補強方法

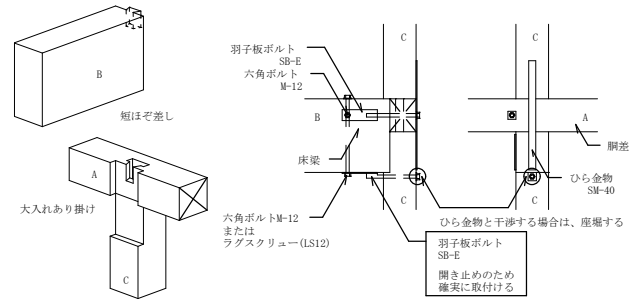
① 直交する胴差がほぼ同寸で、かつ、同一高さで取合う場合

間仕切桁(B)は胴差(A)に大入れ片あり掛け、胴差(A)の間仕切桁(B)より羽子板ボルト(SB-E)で引寄せ。上下管柱は胴差(A)へ短ほぞ差しとし、上下管柱外側にひら金物(SM-40)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



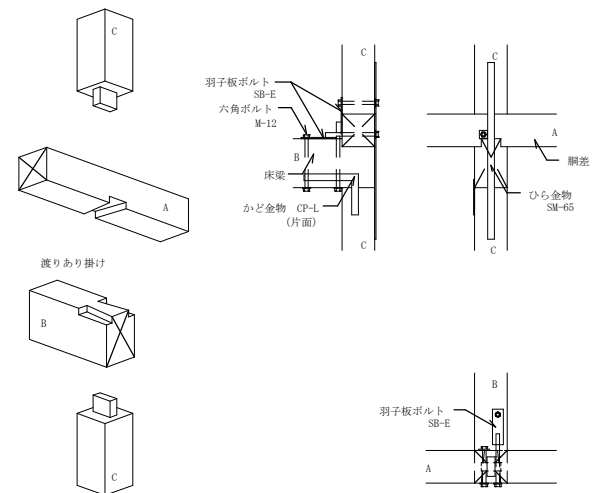
② 胴差と直交する梁があり、上端が揃う場合

床梁(B)は胴差(A)に大入れあり掛け、下階柱には大入れ、胴差(B)を床梁(A)及び管柱(C)より羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ。上下管柱は胴差(A)へ短ほぞ差しとし、上下管柱外側にひら金物(SM-40)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



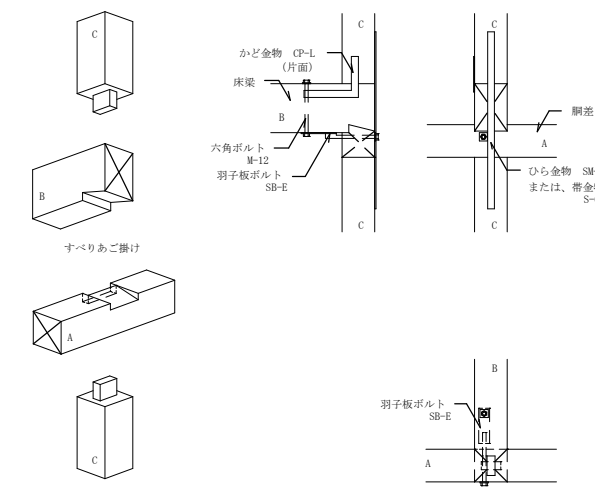
③ 胴差と直交する床梁が胴差の下側にある場合

床梁(B)は下階管柱の長ほぞに差し込み、かど金物(CP-L)を片面に当て、太めくぎ(ZN65)で打ち、胴差(A)は床梁(B)に渡りあり掛け、床梁(B)を羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ。上階柱は胴差(A)に短ほぞ差し、上下管柱相互は外側にひら金物(SM-40) (長さが足りない場合は、帯金物(S-65)を代用する) を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。床梁(B)と下階柱とは、かど金物(CP-L)を片面に当て、太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



④ 胴差と直交する床梁が胴差の上側にある場合

下階管柱の短ほぞに胴差(A)を差し込み、床梁(B)は胴差(A)にすべりあご掛けとし、胴差より羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せ。上階管柱は床梁(B)へ短ほぞ差しとし、上下管柱相互は外側にひら金物(SM-40) (長さが足りない場合は、帯金物(S-65)を代用する) を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。上階管柱と床梁(B)とはかど金物(CP-L)を片面に当て、太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



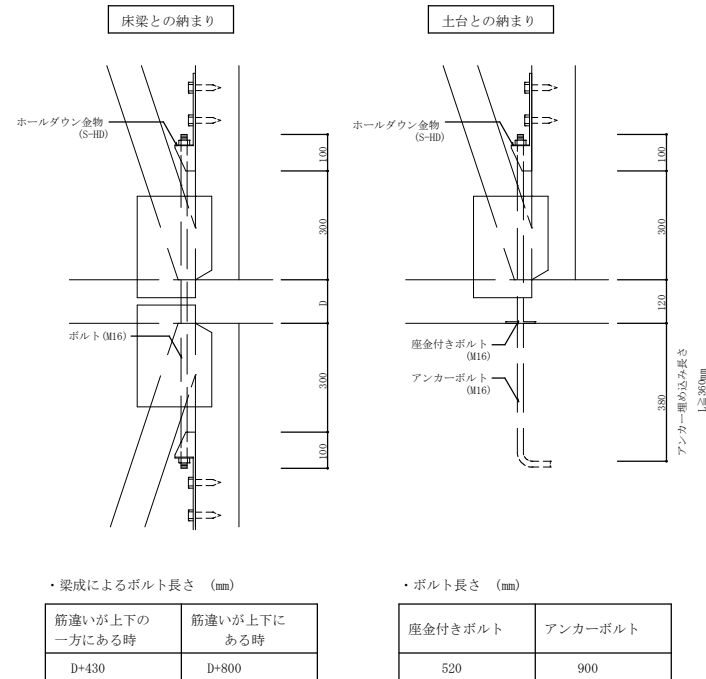
5 ホールダウン金物周辺の納まり

(1) 筋違いとホールダウン金物の納まり

筋違いとホールダウン金物は極力重ならないように位置を決定する。重なりが出てきた場合には、以下の方法を参考に納まりを決定する。

(a) ホールダウン金物自体と筋違いの重なり

ホールダウン金物と横架材間の締め代を長く取り、筋違いと重ならないようにする。その場合、座金付きボルト(土台)やアンカーボルト(基礎)、ボルト(床梁等)が標準の場合より長くなることに注意する。

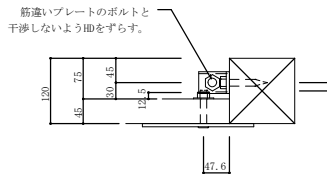


(b) ホールダウン金物の引寄せボルトと筋違いプレートの角根平頭ボルトのナット部分との重なり

120mm×120mmの柱に対して45mm×105mmの筋違いが取り付く場合ホールダウン金物の引寄せボルトと筋違いプレートの角根平頭ボルトのナット部分との重なりを防ぐため以下のように納める。ただし、120mm角未満の場合は施工できないことに注意する。

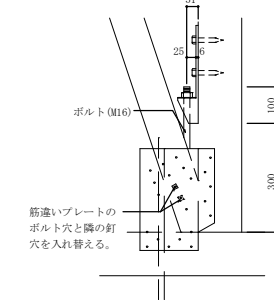
① ホールダウンをずらす

筋違いプレートの角根平頭ボルトのナットが入るように、柱芯から筋違いと反対側に15mmずらす。



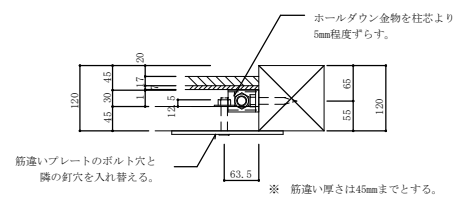
② 改良した筋違いプレートを使用する

筋違いプレート(BP-2)の角根平頭ボルト用穴と隣の釘穴位置を入れ替えたもので、構造性能に変わる基本的な仕様がかわらないプレートを作成し使用する。



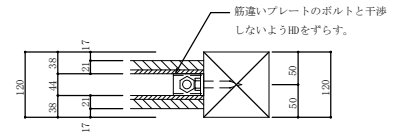
(c) 折衷壁(壁の片側が真壁)におけるホールダウン金物の納まり

折衷壁(壁の片側が真壁)の場合、柱芯から筋違い側に5mmずらし、かつ上記(b)-②のように改良した筋違いプレートを使用する。ただし、筋違い厚さは45mm以下となるようにする。



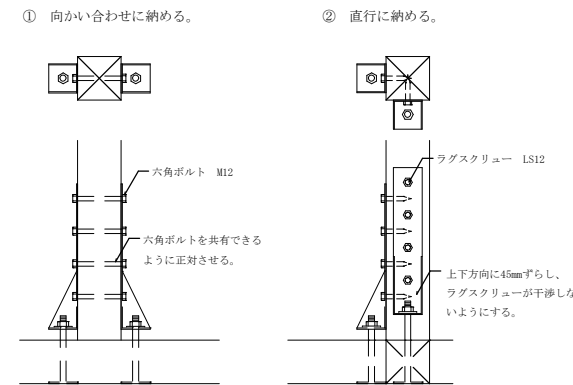
(2) 両側真壁の場合のホールダウン金物の納まり

両側真壁の場合、ホールダウン金物をS-HDとし、また柱のちりを16mm程度にする。ただし、この場合筋違いは設けられない。



(3) 2本のホールダウン金物の納まり

- ① 向かい合わせに設ける場合、六角ボルトを共有できるようにする。
- ② 直交する場合、ホールダウンの取り付け位置を上下に45mmずらし六角ボルトが重ならないようにする。この場合欠損が大きいのでラグスクリューを使用することが望ましい。

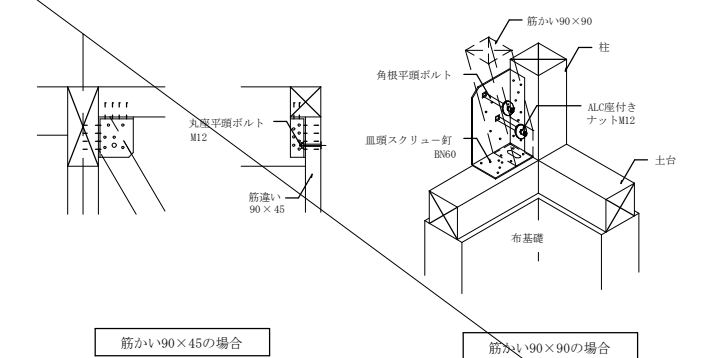


(4) ホールダウンの選定

ホールダウン	ホールダウンのとりにく壁の種類		
	大壁 ※	折衷壁	両面真壁
HD-N	○	×	×
HD-B	○	×	×
S-HD	○	○	○

記号  
○：使用できる。  
×：納まらないため、使用できない。  
※ 面材の受材・筋違い等が干渉する場合はS-HDを使用する。

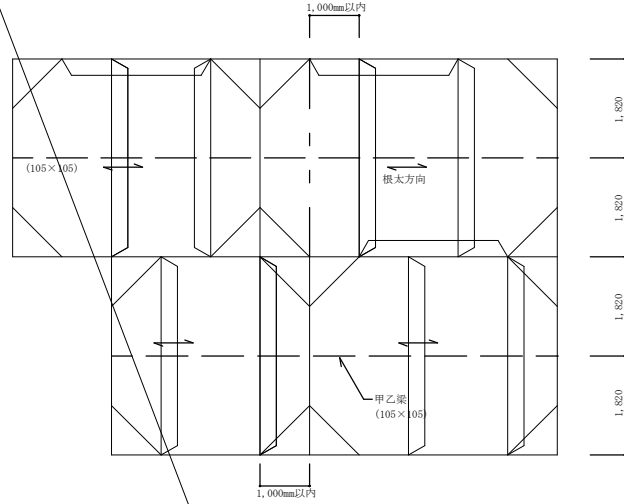
(5) 3階建て用筋違い金物





6 床組 2階(3階)床

耐力壁線の交点が不一致の場合は、その階の水平力伝達に有効な横架材を耐力壁線上に設ける。  
ただし、1メートル(約半間)を限度とする。

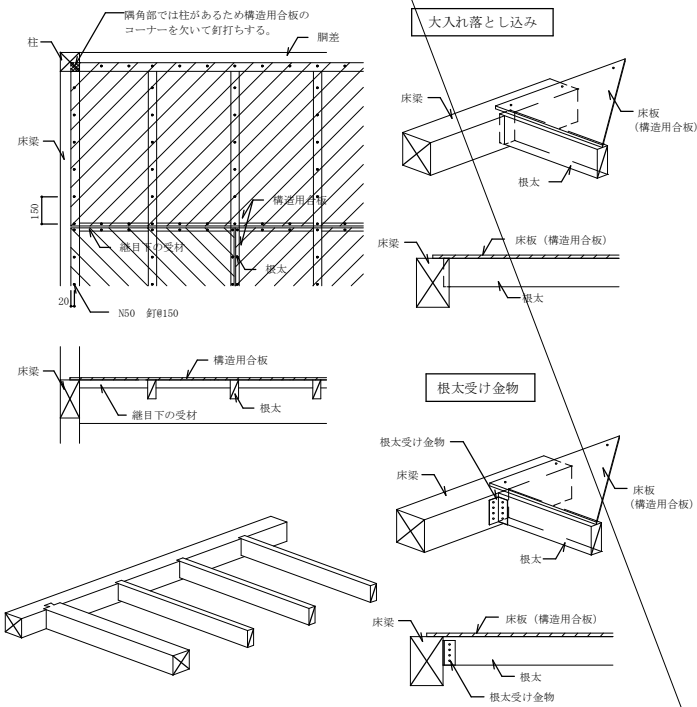


(1) 水平構面の剛性が十分期待できる床の施工(剛な床組)

- 種類：サイズ3×6版以上、厚さ12mm以上の構造用合板を用いる。
- 張り方：構造用合板の長手方向を根太と直交させ、かつ千鳥張りとする。構造用合板の継手は、根太上で突き付け継ぎとし、継目下に受材(45mm×45mm程度)を設ける。
- 釘打ち：構造用合板の四周边は釘(N50)を150mm以下で根太または床梁や胴差、受材等に平打ちする。
- 床根太の寸法は45mm×105mmを標準とし、根太間隔は、455mm以下とする。ただし、断面寸法105mm×105mm以上の甲乙梁を1,820mm内外(1間)の間隔に梁間・桁行き方向に配置する。
- 床梁、胴差の仕口補強  
柱と床梁・胴差、床梁と胴差の仕口は、金物、ボルトにより十分緊結補強する。

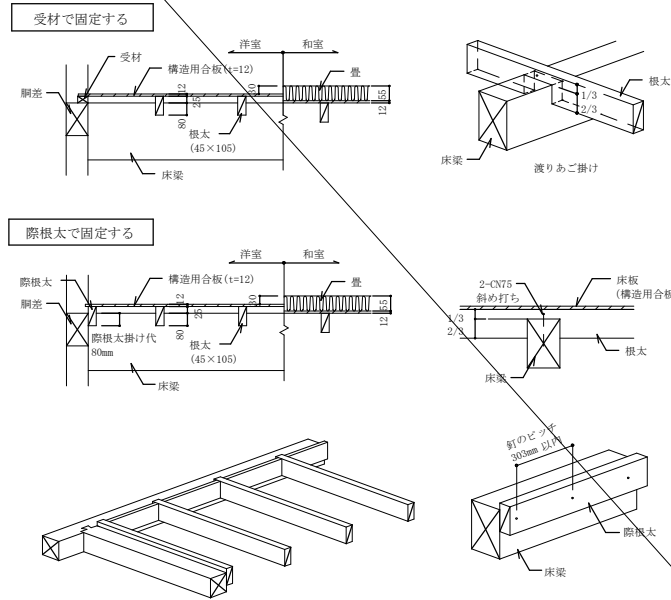
(a) 根太と床梁、胴差の上端高さが同じ場合の施工方法

根太は床梁、胴差に大入れ落とし込みとし、釘(N75,2本)で斜め打ちとするか、または、根太受け金物を用いて床梁、胴差に留め付ける。  
この場合、構造用合板を床梁、胴差に釘で直張りする。  
ただし、隅角部では柱があるため構造用合板のコーナーを欠いて釘打ちする。  
なお、この場合、火打梁は省略できる。



(b) 根太と床梁、胴差の上端高さが異なる場合の施工方法

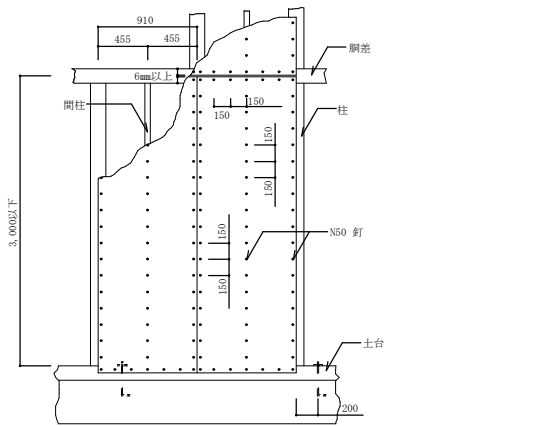
床梁、胴差に直交する根太は渡りあご掛けとし、釘(N75,2本)で斜め打ちとする。  
また、床梁・胴差の際には際根太、または受材を添え付け床板構造用合板の四周边を固定する。  
際根太は床梁・胴差へ釘打ち(N90)間隔303mmで平打ちする。



7 耐力壁(面材)施工例

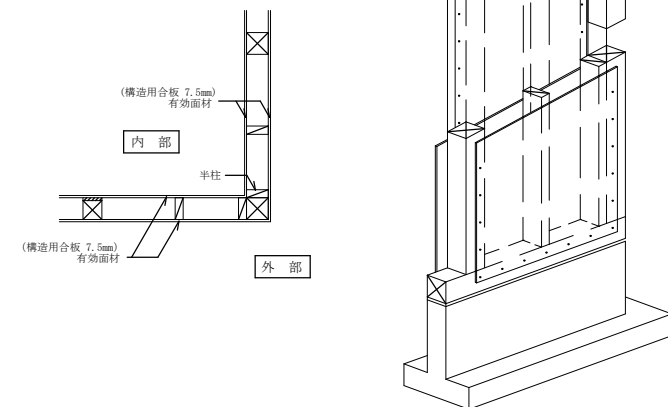
(1) 釘打ち基準  
構造用合板(厚さ7.5以上)

※釘@は下記を基準とし、各耐震壁の@は耐震壁の凡例による

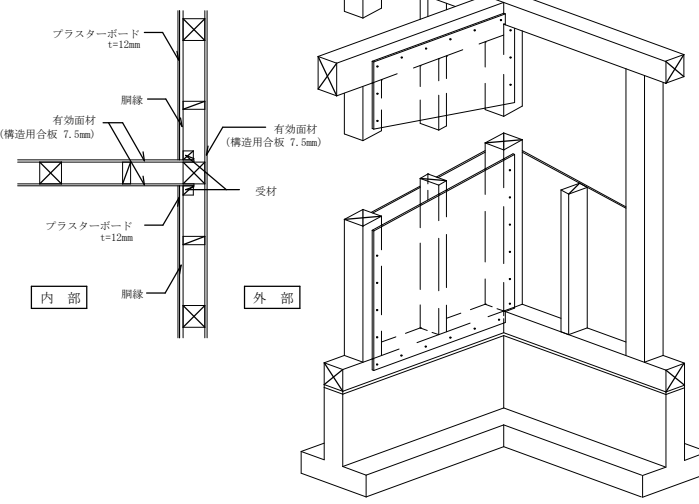


(2) 標準的な耐力壁(面材)の納まり

(a) 隅角部(屋外・室内側とも構造用合板7.5mmの場合)  
内部側の隅角に有効面材を貼るために、柱面に半柱を釘N75 #300で取付ける。

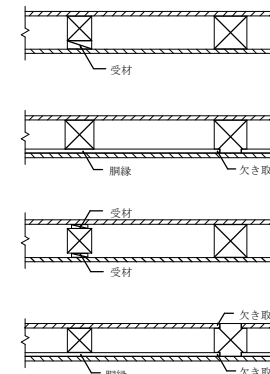


(b) T字部(外壁屋外側・内壁に構造用合板7.5mmの場合)



(c) 柱の断面寸法が異なる場合の面材の納め方

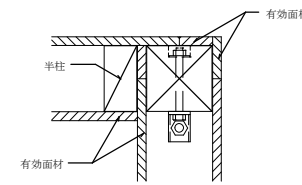
- 柱を外面に合わせる。内壁側は受材で調整し、面材を張る。
- 柱を外面に合わせる。内壁側は柱の一部を欠き取り調整し、面材を張る。
- 柱は芯合わせとし、外壁側、内壁側とも受材で調整し、面材を張る。
- 柱は芯合わせとし、外壁側、内壁側とも柱の一部を欠き取り調整し、面材を張る。



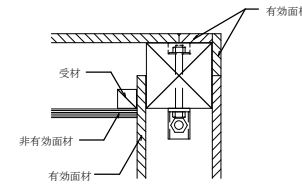
(3) 柱にホールダウン金物を使用する場合の耐力壁(面材)の納まり

(a) 隅角部

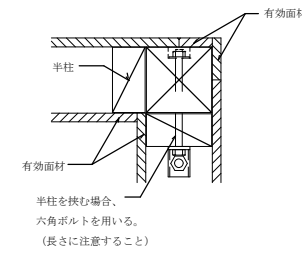
- ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に有効面材を伸ばし、釘打ちする。その上から半柱を釘N75 #300で取付け、その半柱に他方向の面材を釘打ちする。



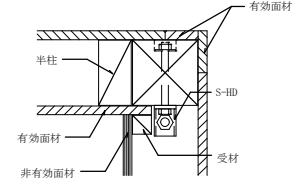
- ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に有効面材を伸ばし、釘打ちする。他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。



- 面材の受材に半柱を釘N75 #300で取付け、その半柱に有効面材を釘打ちする。この場合、ホールダウン金物の取付けは、六角ボルトを使い、また、その長さに注意する。

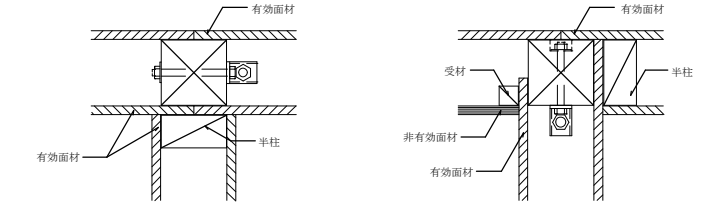


- 面材の受材に半柱を釘N75 #300で取付け、その半柱に有効面材を釘打ちする。他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。ただし、ホールダウンと面材が干渉するので、使用するホールダウン金物はS-HDとし、受材の大きさに注意する。

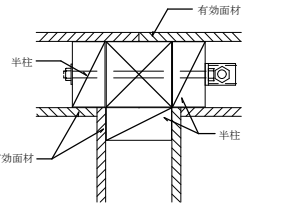


(b) T字部周辺

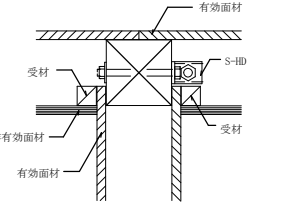
- ホールダウン金物の取付柱面と直交する柱面に面材を伸ばし釘打ちする。その上から半柱を釘N75 #300で取付け、その半柱に他方向の有効面材を釘打ちする。



- 面材の受材に半柱を釘N75 #300で取付け、有効面材を釘打ちする。この場合、ホールダウン金物の取付けは六角ボルトを使い、また、その長さに注意する。



- 有効面材をホールダウン金物に干渉しないように柱面に釘打ちする。他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。ただし、ホールダウンと面材が干渉するので、使用するホールダウン金物はS-HDとし、受材の大きさに注意する。



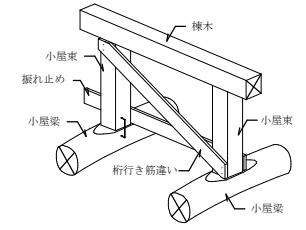
8 小屋組

(1) 小屋火打梁

火打梁は耐力壁線に囲まれた隅角部に設ける。

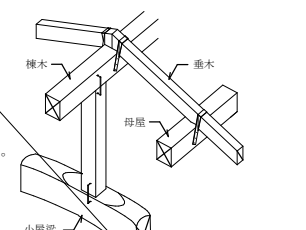
(2) 小屋筋違いや桁筋違いや振れ止め

小屋組の一体化を図るために、小屋束相互及び梁・桁にまたがり筋違いや15mm×90mm以上を釘(N50,2本)で平打ちし固定する。



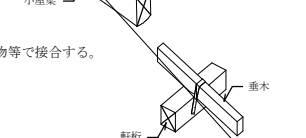
(3) 垂木

軒先部や、くらはば・棟部の垂木は軒桁・母屋・棟木等の受材とひねり金物(ST)・折曲げ金物(SF)・さら金物(SS)等で緊結する。



(4) 棟木・母屋

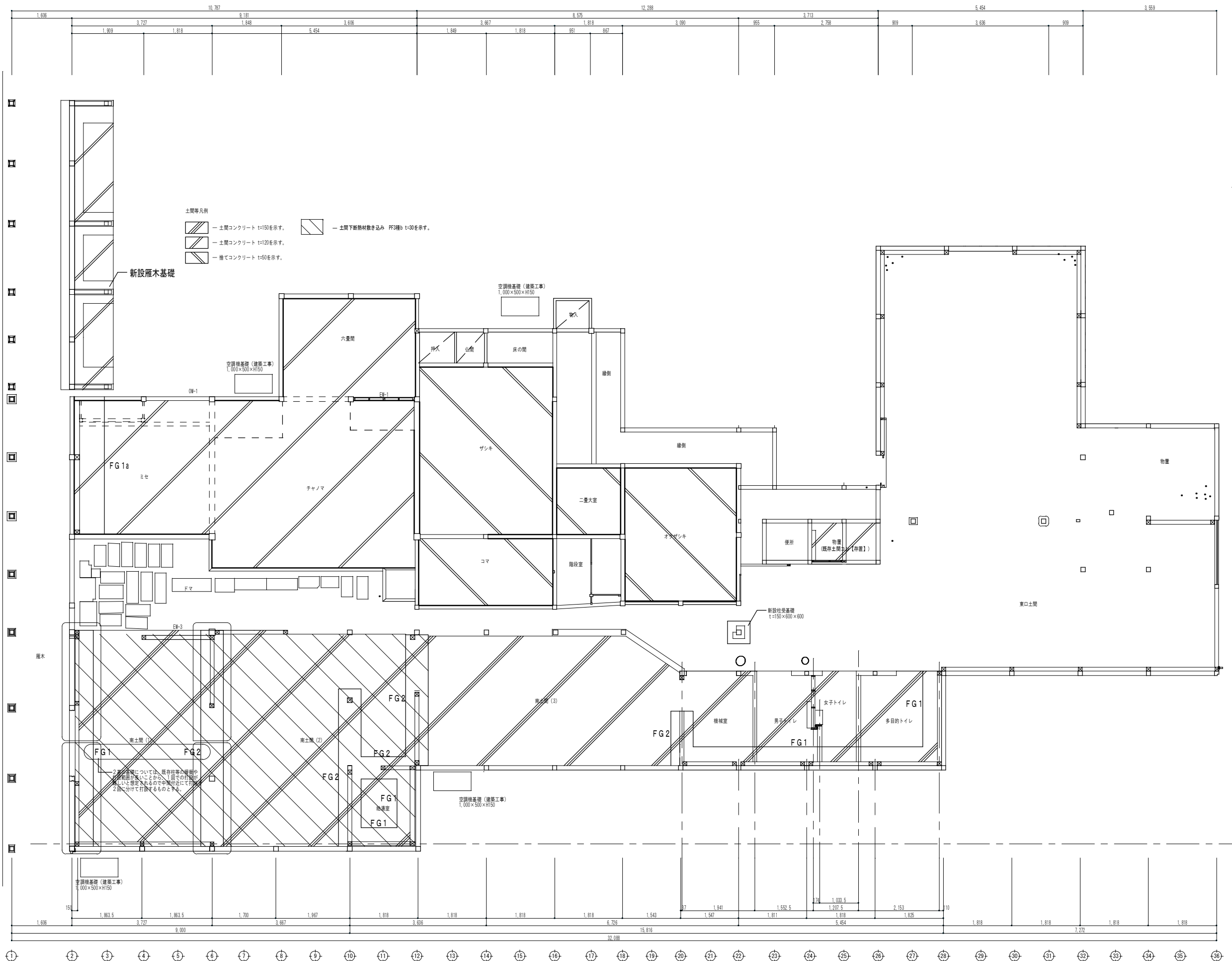
棟木と母屋は、必要に応じて金物等で小屋束に接合する。



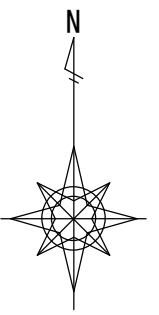
(5) 小屋束

小屋束下部と小屋束あるいは妻梁・桁は、必要に応じて金物等で接合する。

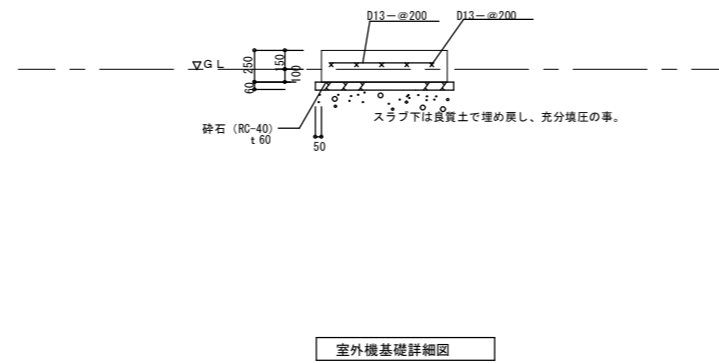
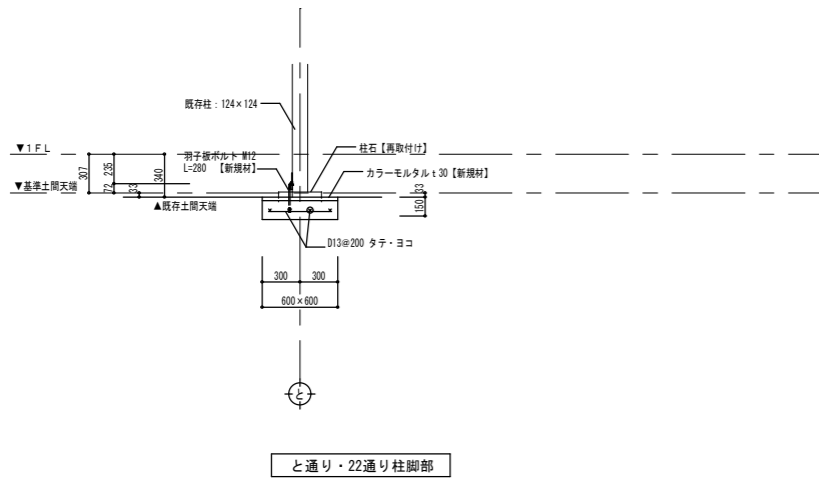
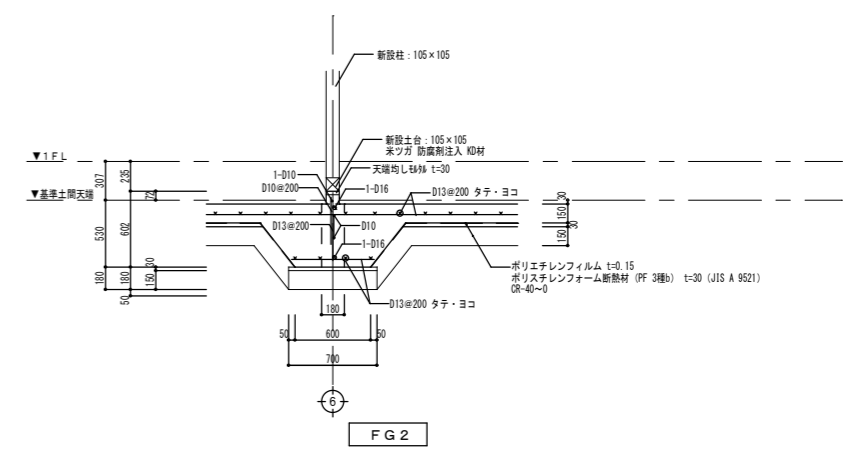
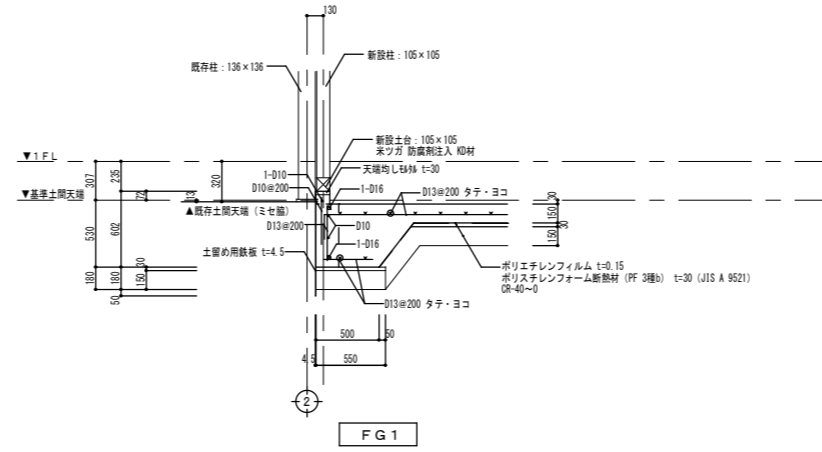
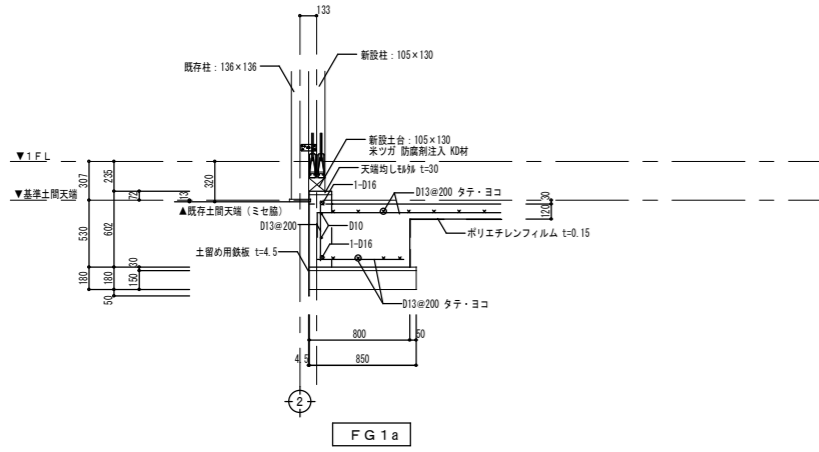
参考図



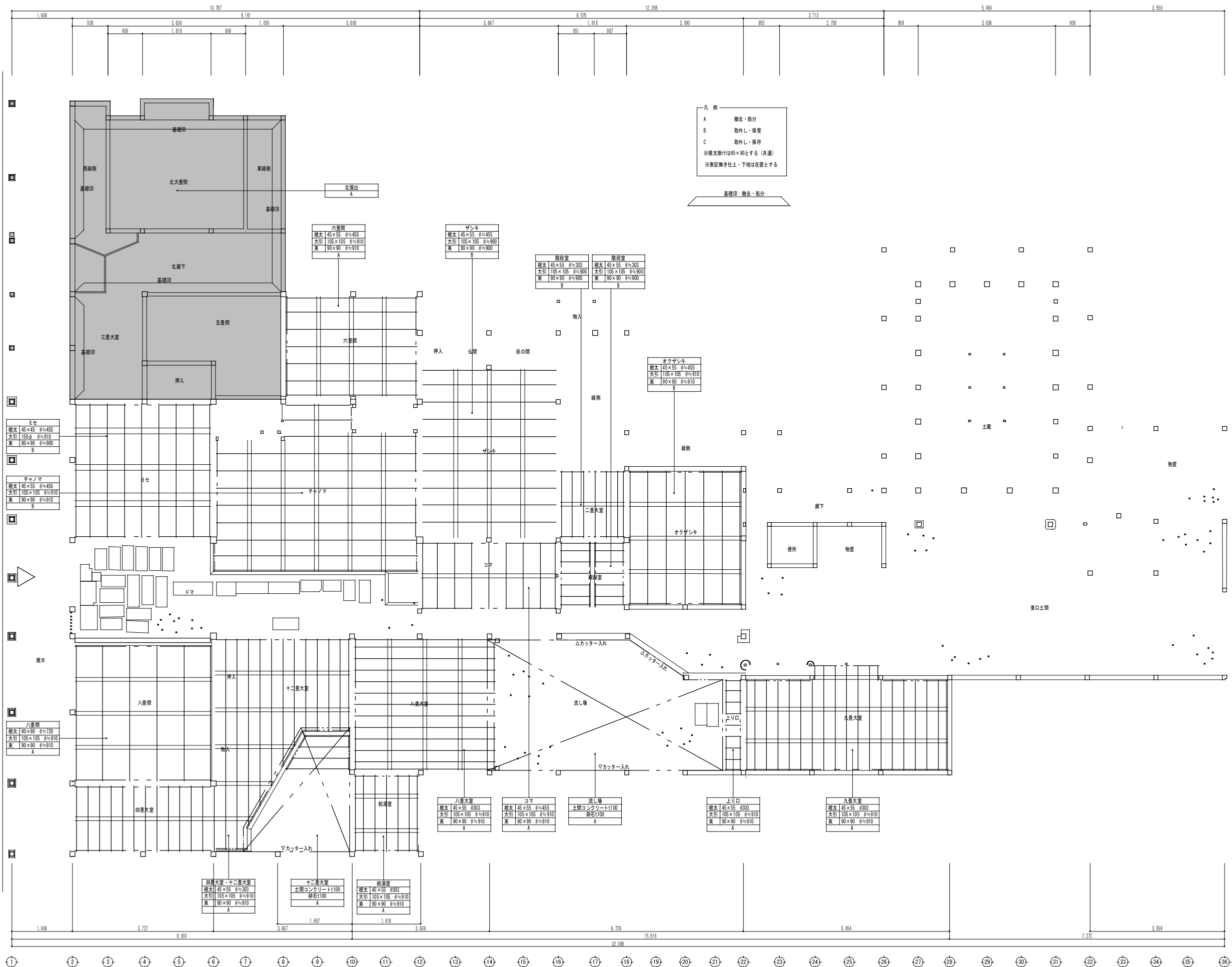
- 土脚等凡例
- 土脚コンクリート t=150を示す。
  - 土脚コンクリート t=120を示す。
  - 捨てコンクリート t=50を示す。
  - 土間下断熱材敷き込み PF3種 b t=30を示す。



2階建築については、既存柱等の掘削や  
基礎の打ち込みなど、1階での作業  
が難しいと見られる中で、中継柱を2階  
2面に分けて打設するものとする。



基礎コンクリートの打設方法について  
2通り、6通りの基礎については、既存柱等の緩衝や打設範囲が長いことから、1回での打設が難しいと想定されるため中間付近にて打継ぎ2回に分けて打設するものとする。  
土留め用鉄板は根切時の土の崩壊を防止するため使用する。又、型枠を設置するにあたりサポートを溶接するために設ける。尚、現場の状況により幅を調節し土中に打ち込むものとする。  
打設にあたっては、土間境にセキ板等を設けコン止めとする。床束及び柱回りの土間コンクリートを打設する際は、既存部分に影響をあたえないように考慮し、固定が十分行えるよう密実に充填すること。



凡例  
 A 撤去・処分  
 B 取外し・保管  
 C 取外し・保存  
 ※柱太付けは45×90とする(共通)  
 ※表記無き柱・下地は在置とする

基礎⑧・撤去・処分

ミセ  
 柱太 45×45 #445  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 B

チャノマ  
 柱太 45×45 #445  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 B

八層大室  
 柱太 100×90 #720  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

四層大室・十二層大室  
 柱太 45×55 #303  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

十二層大室  
 土間コンクリートt100  
 砕石t100  
 A

給湯室  
 柱太 45×55 #303  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

八層大室  
 柱太 45×55 #303  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

コマ  
 柱太 45×55 #465  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

流し場  
 土間コンクリートt100  
 砕石t100  
 A

エレベーター  
 柱太 45×55 #303  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

九層大室  
 柱太 45×55 #303  
 大引 105×105 #910  
 束 90×90 #910  
 A

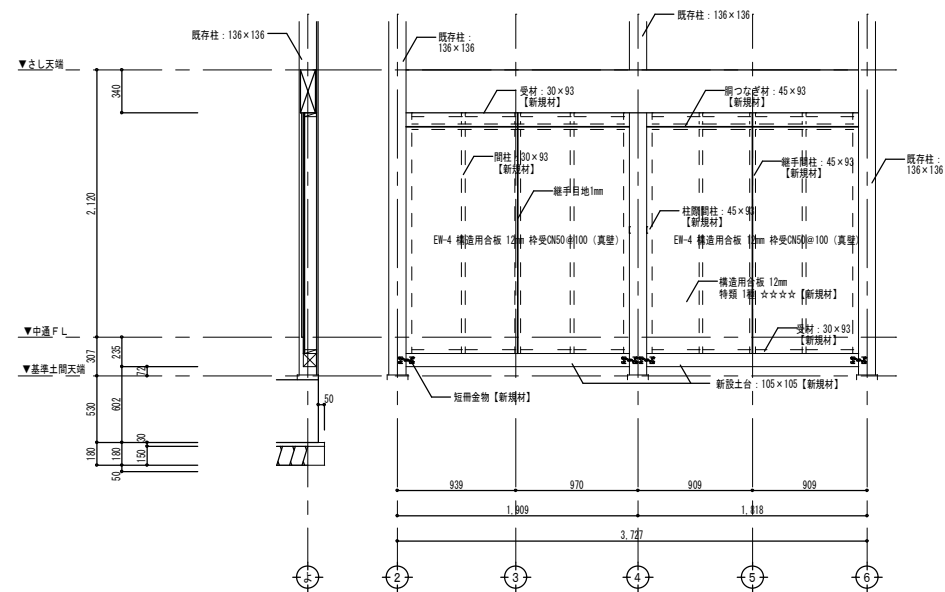




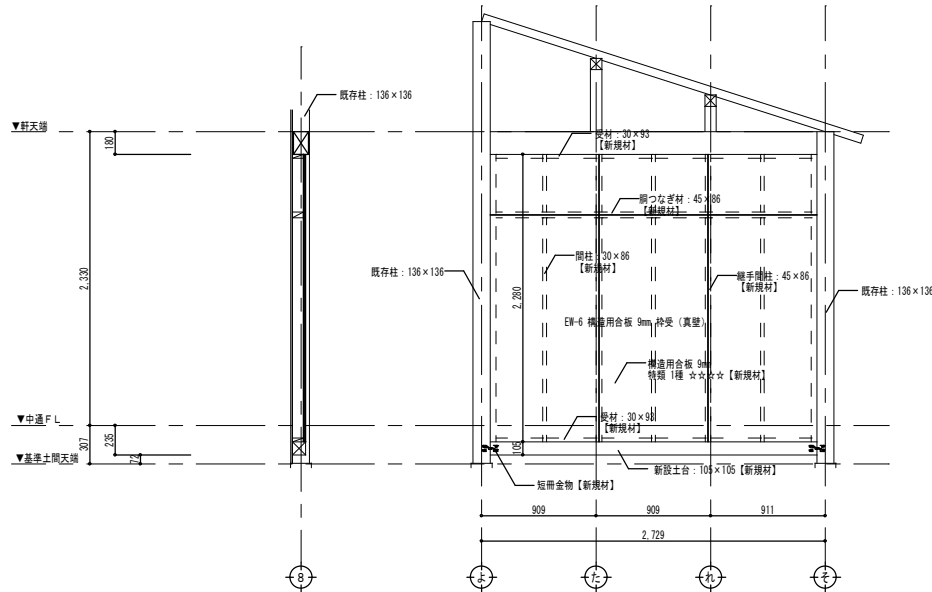




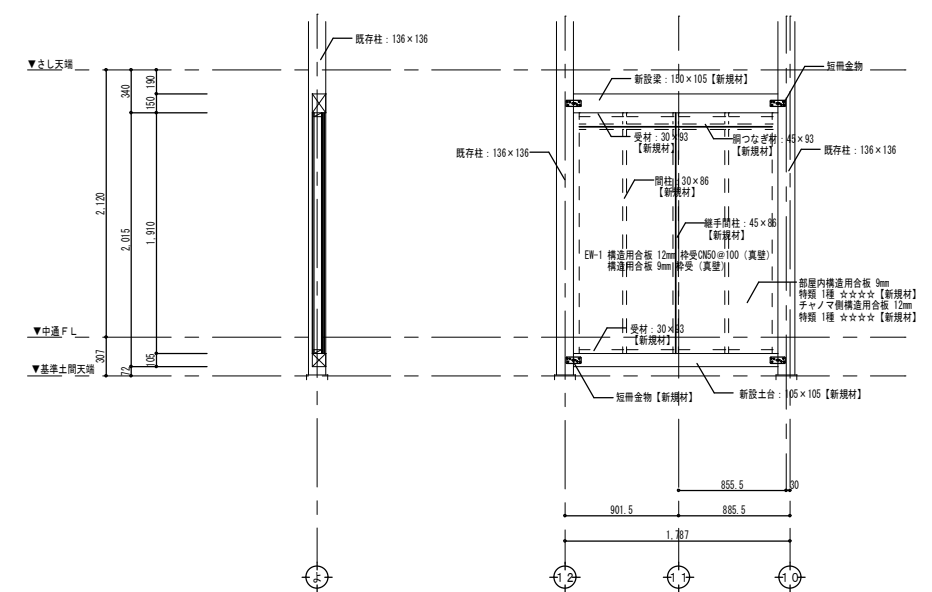




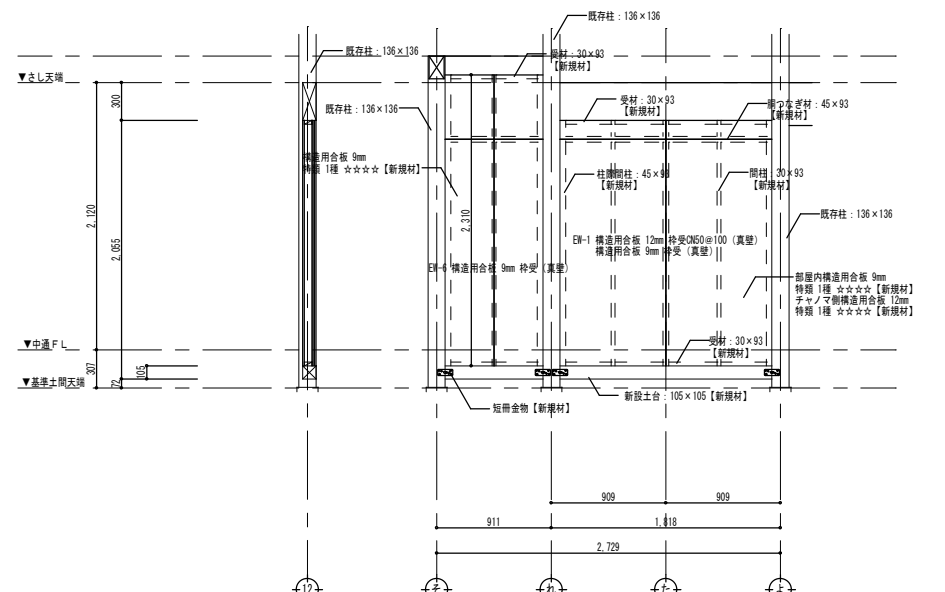
ミセヨリ補強部詳細図



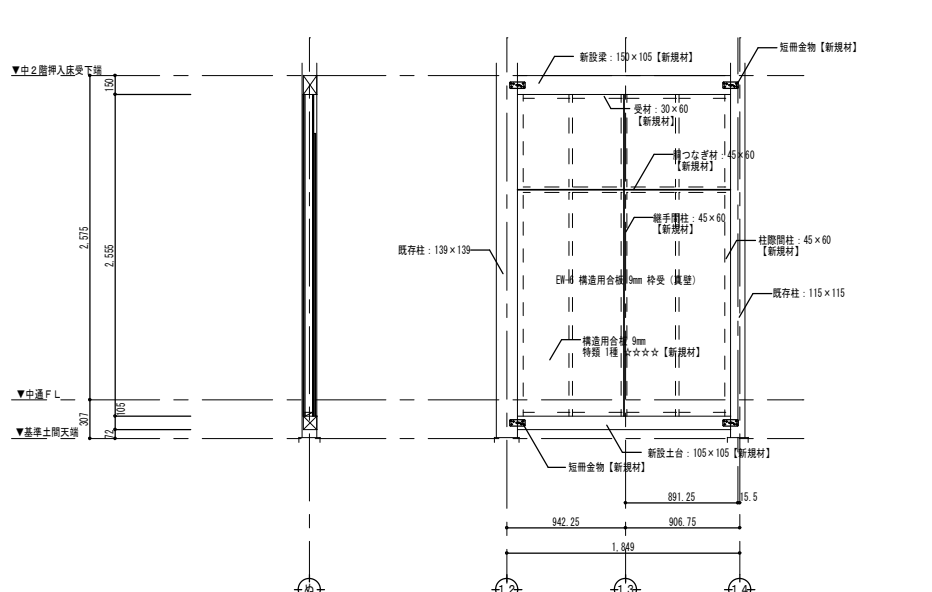
六畳間8通り補強部詳細図



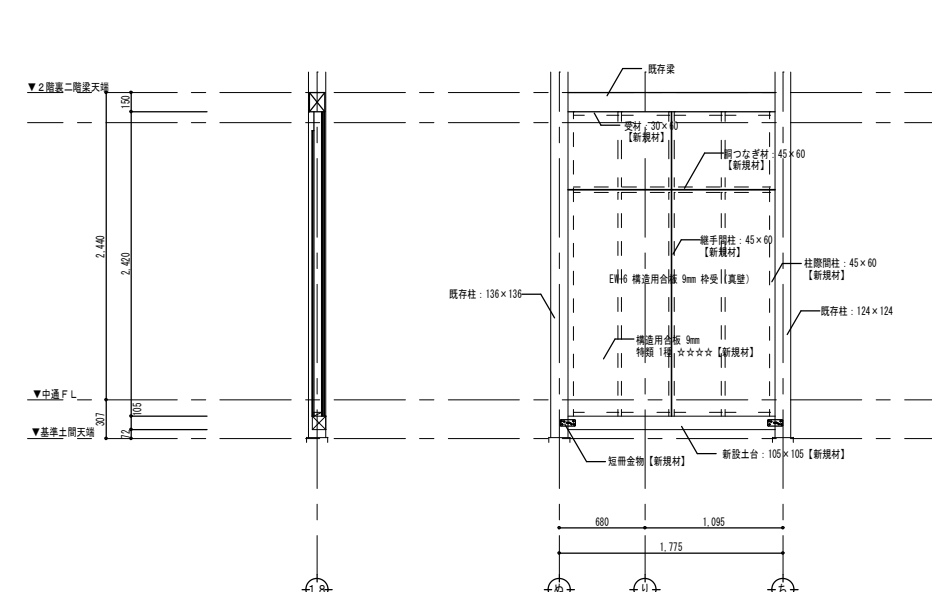
六畳間よ通り補強部詳細図



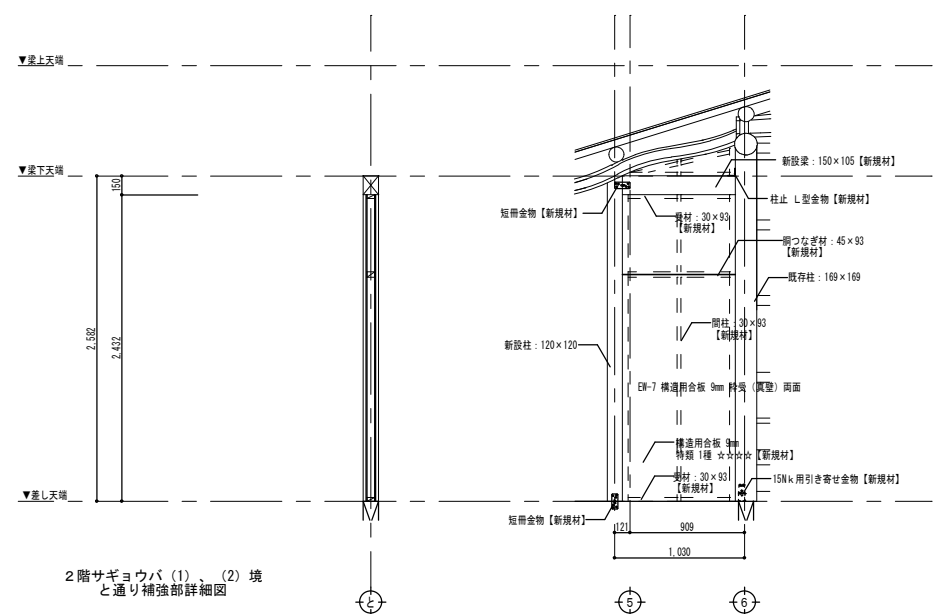
六畳間12通り補強部詳細図



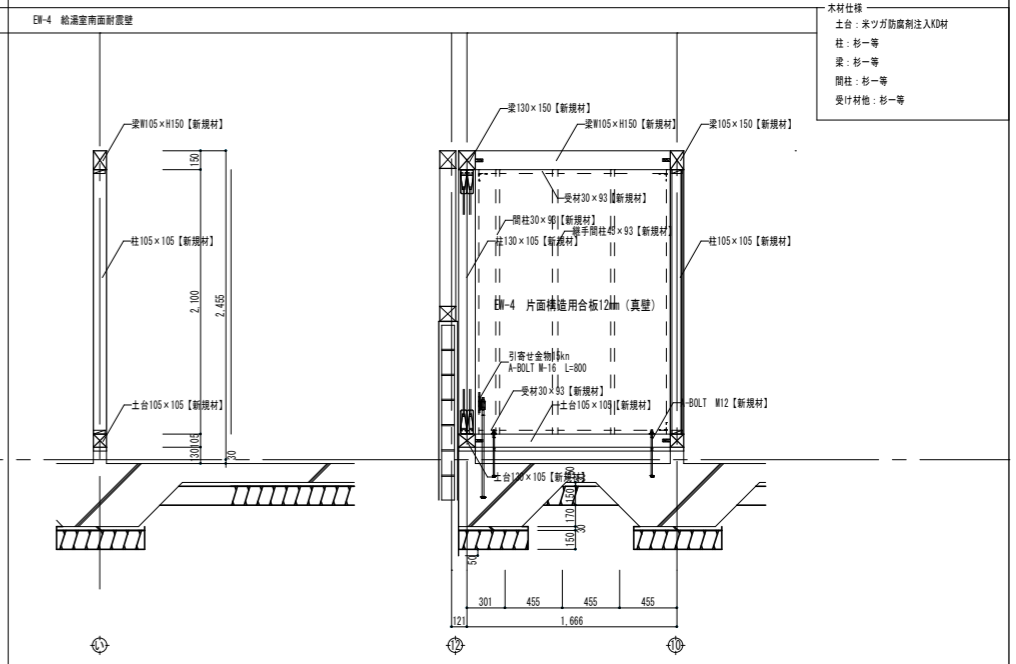
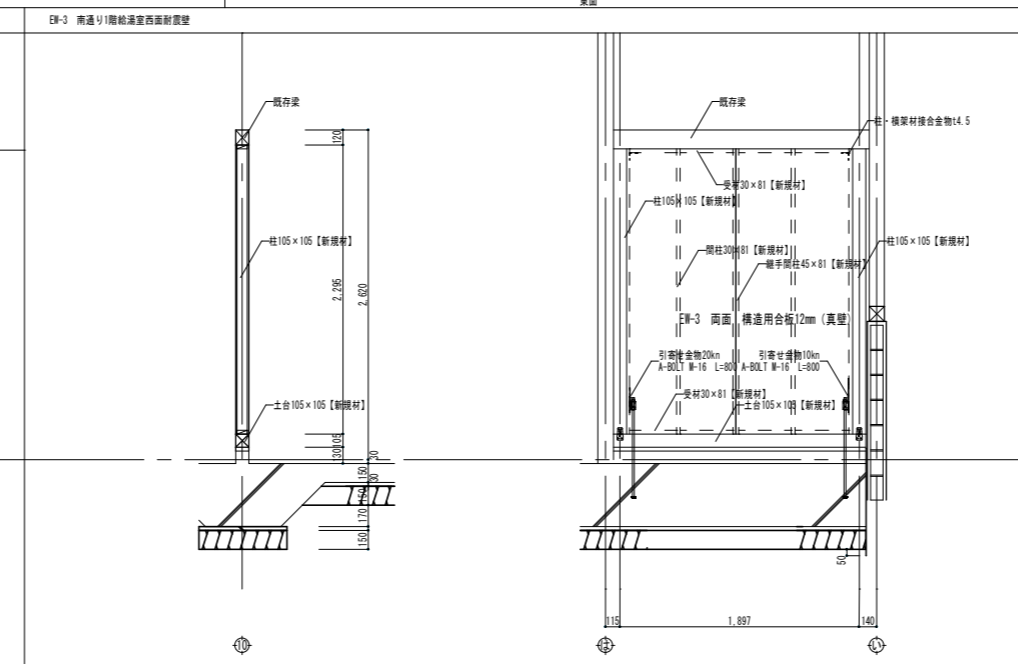
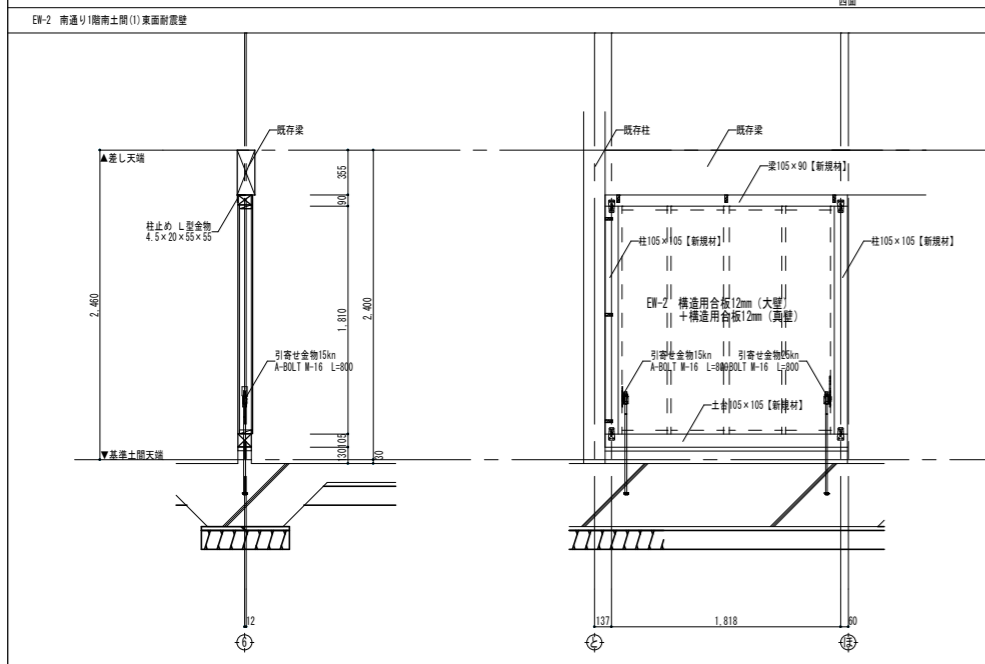
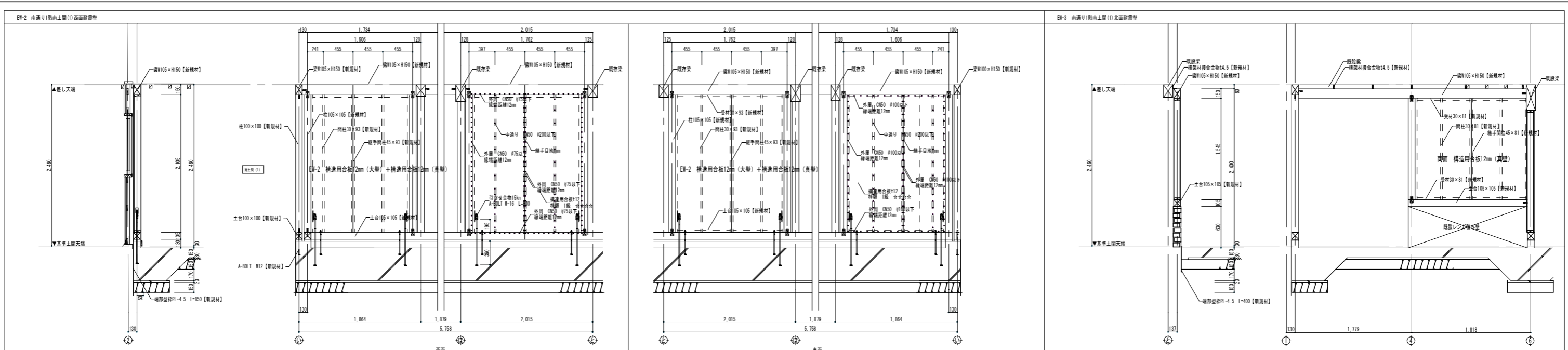
コマめ通り補強部詳細図



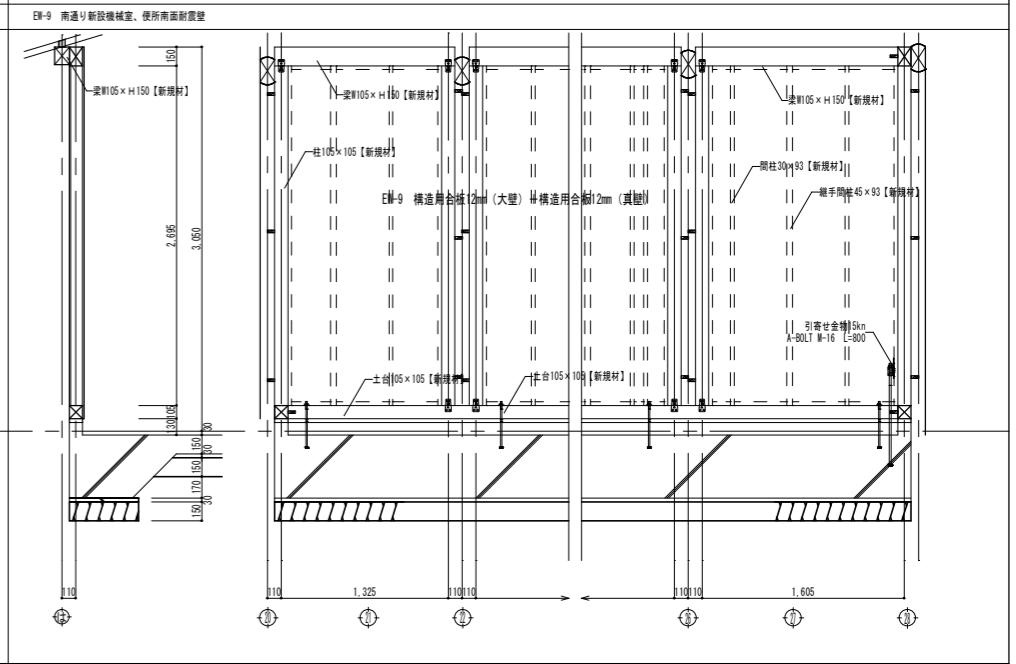
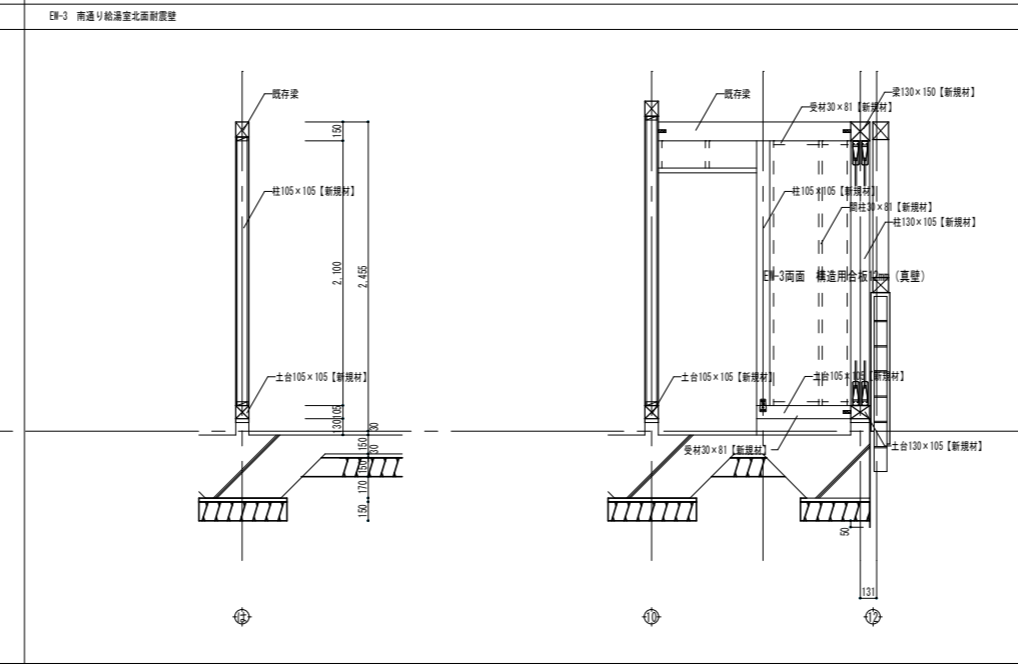
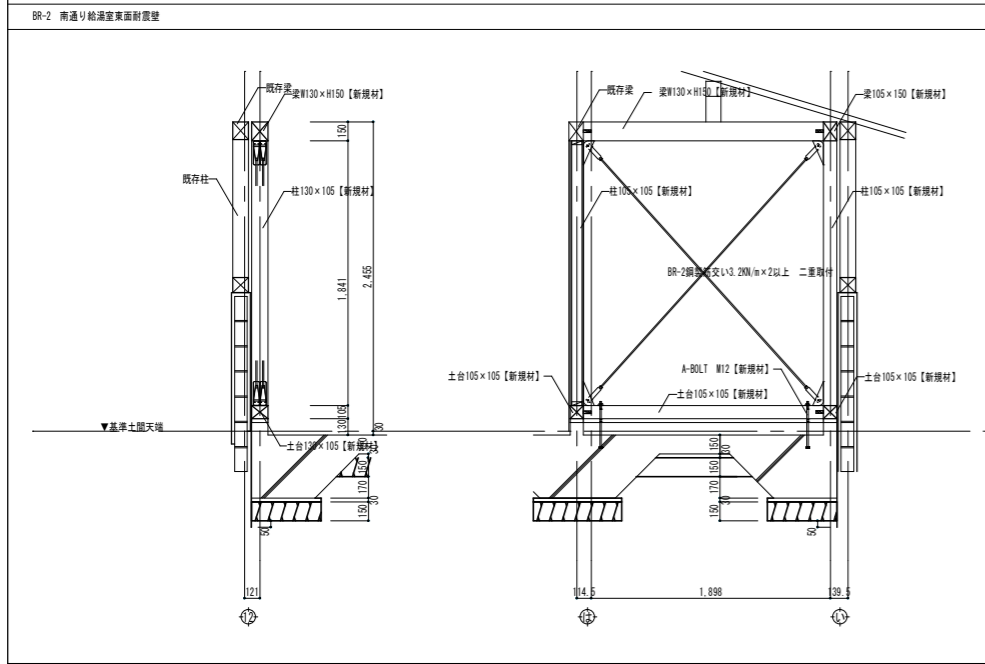
階段室18通り補強部詳細図



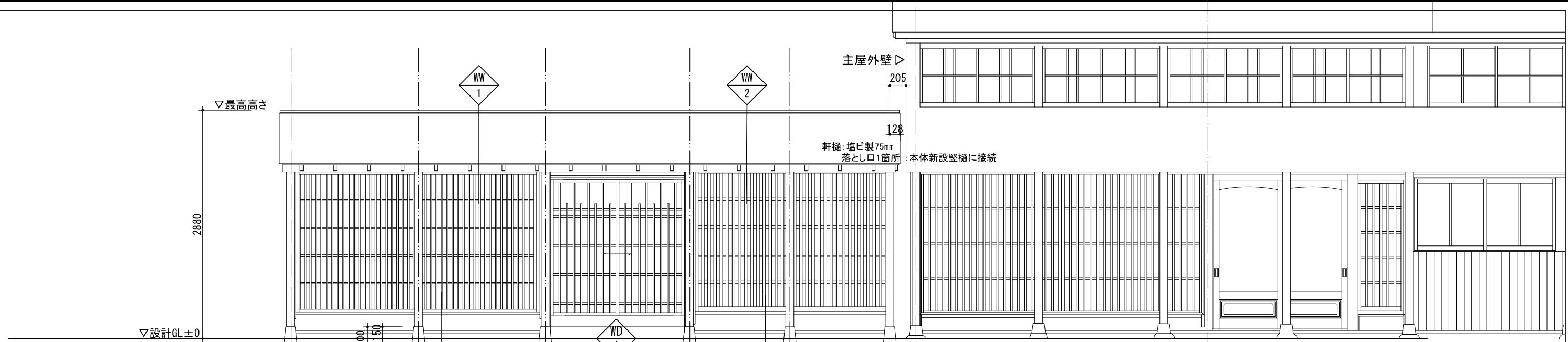
2階サギョウバ(1)、(2)境  
と通り補強部詳細図



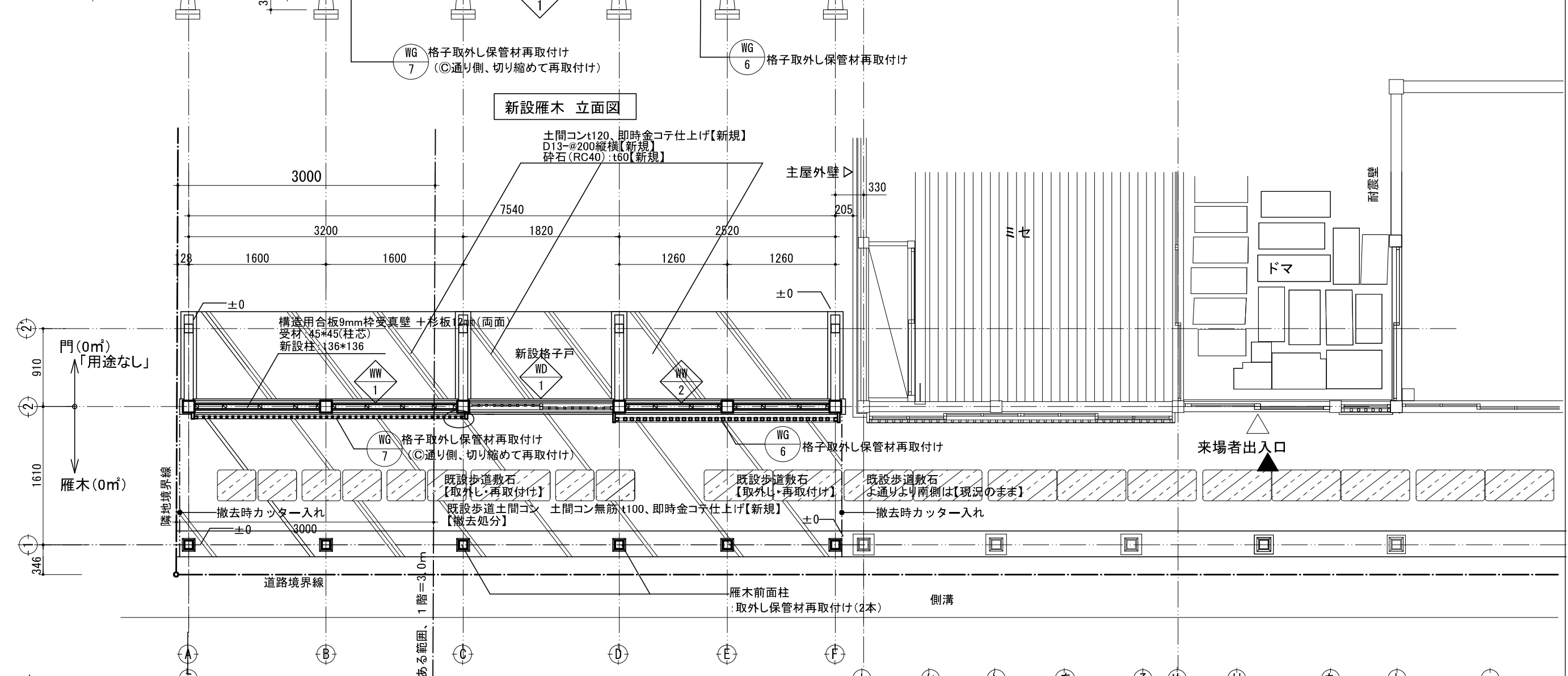
木材仕様  
土台：未ツ方筋鋼材注入R3材  
柱：杉一等  
梁：杉一等  
間柱：杉一等  
受け材他：杉一等



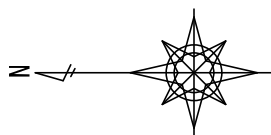




新設雁木 立面図

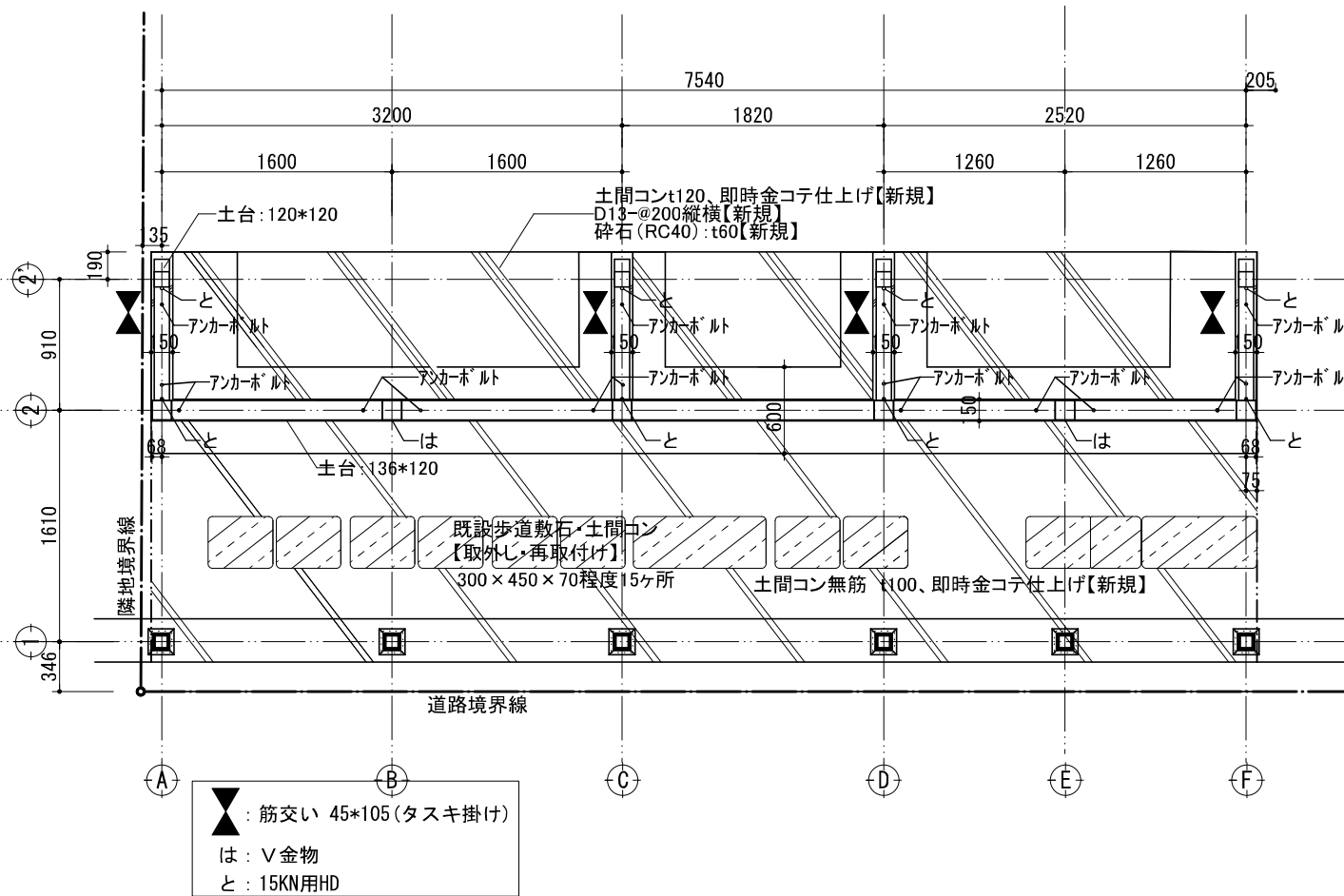


新設雁木 平面図



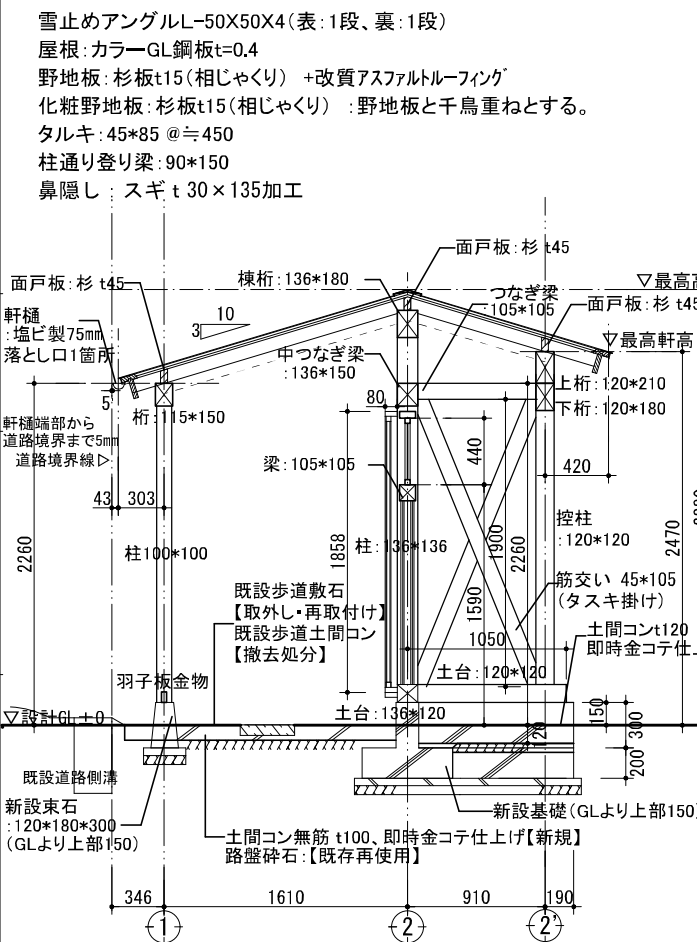
新設雁木 基礎・土台伏図

A1:1/25  
A3:1/50



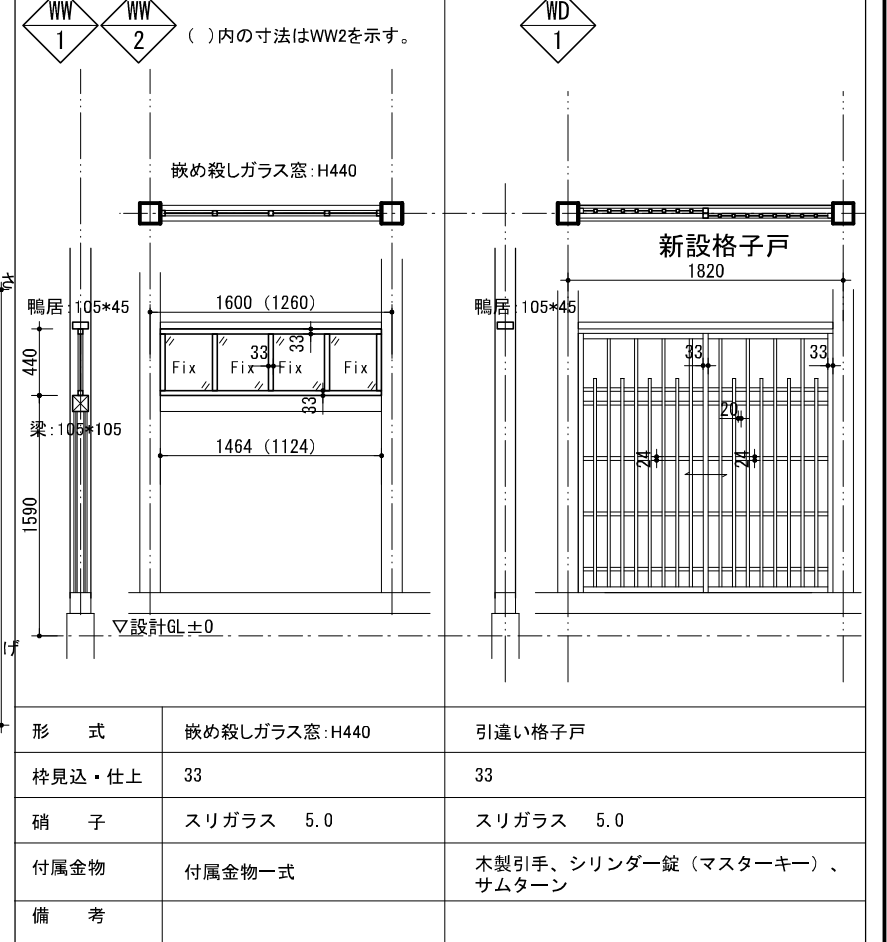
新設雁木 断面図

A1:1/25  
A3:1/50



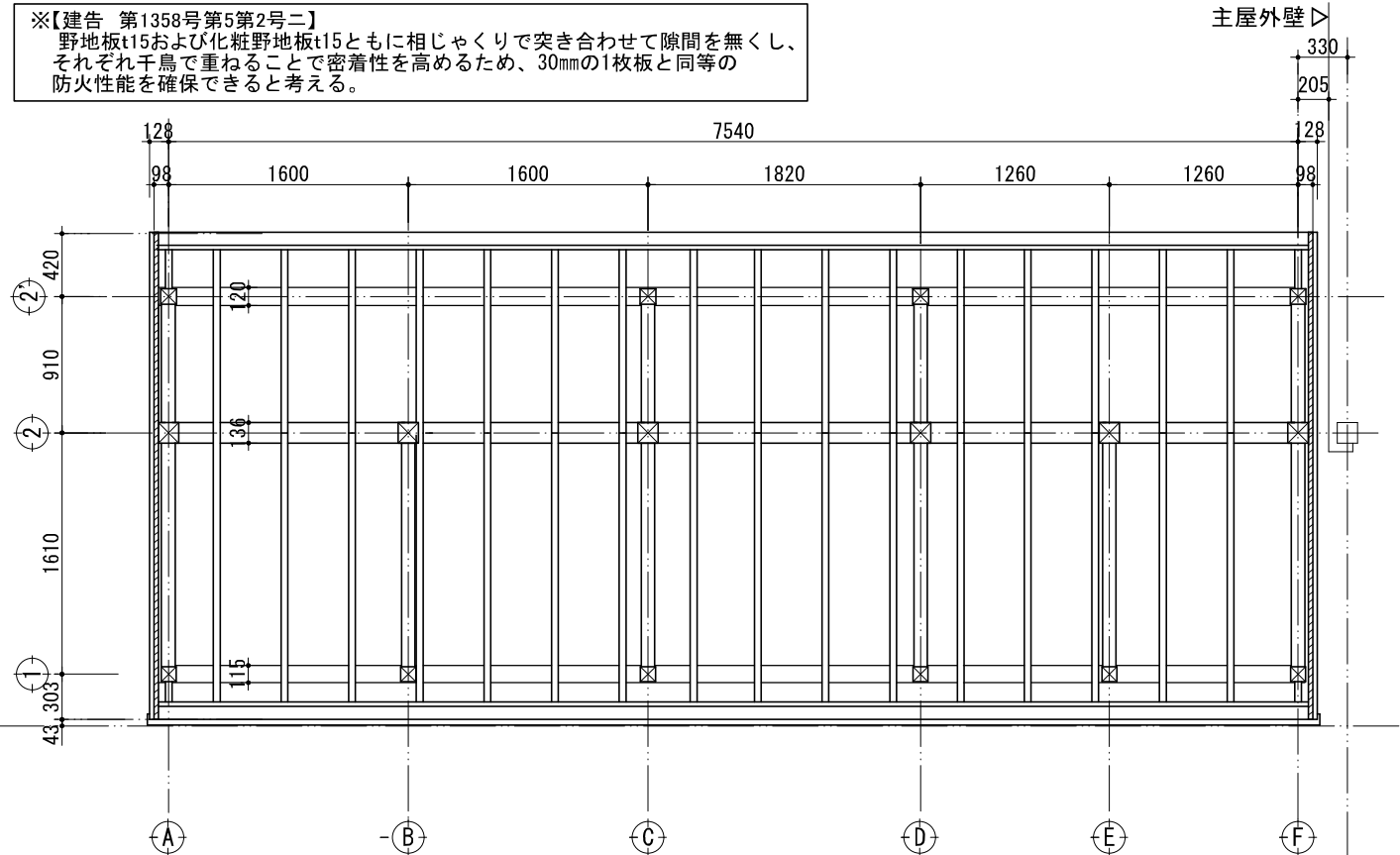
建具詳細図

A1:1/25  
A3:1/50



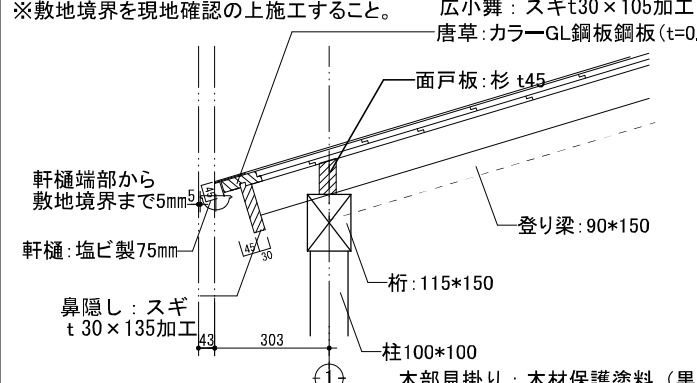
新設雁木 小屋伏図

A1:1/25  
A3:1/50



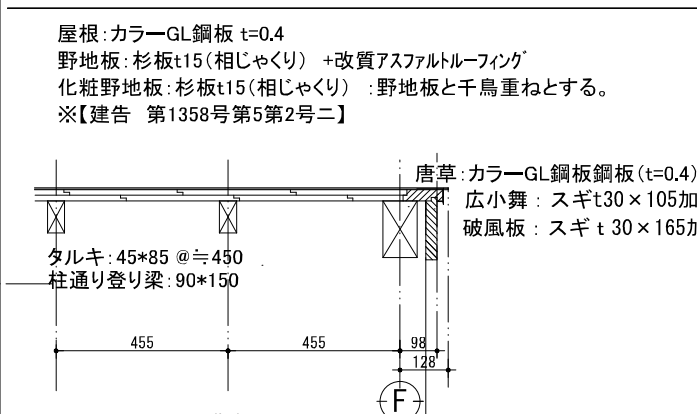
軒先詳細図

A1:1/10  
A3:1/20



ケラバ詳細図

A1:1/10  
A3:1/20



基礎詳細図

A1:1/10  
A3:1/20

